無産階級戰闘雑誌

四月號

若人よ花と共に燃えよ……巻頭言
現下の政治的推移……鈴木厚
無産階級法律問答……布施辰治
變則數篇……小牧近江
社會の貧乏と仕組……石川準十郎
新方丈記……山川亮
牧、渡邊、佐藤、梅津、虎之門、谷、井上
西下、谷口、雲助

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告

本誌二月三月 兩號發賣禁止

本誌二月號三月號ともに發賣禁止の命を受けた。恐らく、前古未曾有の惡法「治安維持法案」に反對したのが惡かつたであらう。思へは、我等は此處にも「自由」を有して居た。自由に發賣禁止を命ぜられ、自由に押收せられる「自由」を有して居た。然それ、長期に亙つて干し殺しにされる「自由」のみならんやである。天が下は今や巷間到る所「自由」に充ちて居る。無産者の子は、右足を擧げて左足を下す勿れ。汝の下には釘の「自由」が貫くべく待つて居る。此處に三萬の讀者諸君に、兩號の或は落手しなかつたであらう所以を告げて謝して置く

同志より寫眞器を寄贈さる

本誌前號「櫻田編輯便り」に於て同人石川が、本社が寫眞器を買はんとして居る由（資金の都合で今迄買へなかつた由）を洩らせし所、今回米方面の一同志（同氏の希望に依り名は秘す）より時價百二十圓の新寫眞器を寄贈された。同氏は本社にとつては從來全くの未知の同志であつて、我々は斯かる寄贈を思ひ掛けなくも受けたことを衷心より感謝して止まないとともに、契つてその期待に背かざらんことを期するものである。尚寫眞器は買つたが、社内の技師速成が間に合はざる爲本號には撮影し得なかつたが、次號よりは撮影可能のことゝ思ふ。右此處に喜んで同志諸君に普く報告し、以ていさゝか喜びを分たんとする次第である。

研究會例會引續いて開催す

本誌二月號に社告せしが如く、本社に於ては毎月十日、二十五日兩日の夜研究坐談會を開催して居る。但し去る一兩日は、「治法」反對運動の爲に（本社が都下思想團體惡法反對聯盟の事務所なりし關係上）休止流會したが、今後は引續いて必ず開催する。毎月兩日の中一回は講義を主とした研究、一回は討論を主とした研究にする豫定である。成く同氣の志の參會を望む。尚希望者の如何に依つては原稿に依る研究會を開催しても宜い。

本社支局設置希望者へ

本社には現在殆と全國各地に亙つて一ケ所乃至數ケ所の支局があり、尚朝鮮、滿州、支那にまで支局を有して居るが、尚更に希望者には其設置を契約する。但し、その設備決定は一に本社の自由とす希望者は本社にまで問合はせられたし。尤も其希望地に既に本社支局の存在する場合は、其支局と懇談の上決定するものとす。

本社に於ては東京本社の漸次的充實と相俟つて、今後出來るだけ支局に便宜を計る積りである。尚本社に於ては今秋頃より近世社會主義の古典的文書を網羅し、劃時代的廉費を以て一大刊行を企つる豫定なるを以て、其際は支局に實費を以て提供し、いさゝか以て便宜を計る心算である。

原稿一般募集

「進め」原稿を普く募集す。本誌は全日本無産階級のものである。地方無名青年の魂こもれる論文を殊に歡迎す。無産者の黎明乃至苦鬪を歌へる詩又可である。その強き意志と深き理智との結晶を以て明けゆく新時代のオーケストラを奏せ。

四月號目次

昔の農民運動……（表紙）……高橋季暉
若人よ花と共に燃えよ……（卷頭言）……櫻田雲助
社會の貧乏と社會の仕組……石川準十郎
無産階級法律問答……布施辰治
變則數篇……小牧近江
現下の政治的推移は我々に何を物語るか……鈴木厚
端書回答……（今後の無産青年の使命）……
暗黒時代に當面して……牧生
資本主義にトドメの刺される時は何時か……渡邊信義
暴法反對最後の示威運動……寫眞
暴法に破れて……渡邊理治
潜行運動へ……佐藤光政
全土戰報
プロレツトカルトとは何か……根津四郎
新しき力は新しき人々より……虎之門小助
國際運動へ跳躍せよ……谷朴秀
新方丈記……山川亮
官業勞働運動の思想的傾向……井上多波
醒めざりし者……西下貞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あゝ！何時まで眠れる

兄弟よ　姉妹よ
ああ！何時まで眠れる？
世はほうはいとして
光ある、世紀の曙である。

永く、ながく、鐵鎖に繋がれ
幾多の貧しき、兄弟姉妹が
犠牲の祭壇に、血と肉とを捧げたことであらう。
見よ、赤煉瓦塀の刑務所の睡眠を……。

正義が、正義として、認められぬ
神聖が、神聖として、認められぬ
愉悦なき、汚穢の物質世界——
黄金の殿堂にセメン時の人種が跳梁跋扈しつつ
搾取さるる、眠れる無産階級よ！。

曾ては、樂しい夢の國——花園であつた、田園の荒廢よ
年年歳歳都市に侵略されて、萎縮しつつ
破滅の彼岸に、最後の運命を辿つてゆく。

郷土を持たぬ、こころは悲しい
土に背いて生きる人生の、惨めなる生活——
愛のふる郷に、萬人の生活が營まれ
光輝ある、世紀の建設——。
兄弟よ　姉妹よ
あゝ！何時まで眠れる？
迷夢から醒めて——新生の曙に
高く、たかく、喇叭を鳴らさうよ。

（大和久朗）

若人よ！花と共に燃えよ！

—日本無産階級青年に與ふ—

◆地軸一轉又花咲く春が來た。この國は名にし負ふ花の國である。北は樺太より南は臺灣に至る迄、その名にし負ふ花は霞と共にたなびき燃ゆ。日本の若人は生れ乍らにしてそのめぐる血潮の中に花と共に燃ゆる性質を持つ。

◆今年は花の當り年である。日本無産階級にも花が咲いた。治安維持法案の花が咲いた。日本無産階級はこの花かざしてこの花の國に躍る。曠々夸として花雲爛漫限りなく、目を喜はしめ心を喜はしましむるもの又斯の如きありや。

◆手を翻せば雲となり手を覆へせば雨となる。朝に呉客を送り夕に越客を迎ふ。豈それ澆代人心と娼婦のみならんや。現今日本支配階級又然り、朝に「普選案」を通過し、夕に「治法案」を通過す。その心寧ろ娼婦にも勝つて推賞すべし。

◆日本支配階級は今や完全に劍と獄屋とを以て、日本無産階級解放運動を封殺した。其の爲す所漸くロマノフ政府と相通じて來た。劍と獄屋との恐嚇政治の開始は正に一代を震撼さして居る、けれども、思へ。ロマノフ政府はかくして永しへに榮へてあり得たか？

◆宜し、日本支配階級も日本無産階級の膏血にその玉盃のふち溢らせて、永しへの勝利を夢み、短夜かこつて、誇るべし。世は春である。所は名にし負ふ花の國である。護憲内閣の諸君は須らくおぼろ月夜の花の宴、侍る紅裙の絃歌とともに、勝利の歌を歌つて可なりである。世は花とともに太平である。

◆さもあらばあれ、世は春である。この春、曾て幾度か被支配階級の若人は花とともに燃えしぞ。人類の歴史を飾る或ものが有つたとしたら、それは實にこの花とともに燃えし若人の、美しき物語りである。それは夜の空に輝く銀河とともに、人類の歴史に不滅の文字を印して止まない。それは砂漠に於けるオアシス（泉の湧いて居る灌木地帯）とともに、後世の人生の旅人に不滅の力を與へて止まない。

◆日本無産階級の若人よ！世は春である！花とともに益々燃へよ！　（霊助）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會の貧乏と社會の仕組

石川準十郎

（社會的無駄の巻）

一

近世社會主義の先驅者の一人に佛國のフーリエーと云ふ人がある。この人は其少年時代マルセイユ（佛國の港で、日本で言へば横濱の樣な所）の或る穀物問屋に奉公して居た。一日彼は驚くべき事實を發見した。當時佛國は飢饉のために苦しめられて居た時であつて殊にマルセイユは慘憺たる光景を呈して居た。所が、其時山なす穀物を積んで入港した船が、その穀物を陸上げせずに、これをは海中に投じて居た。穀物問屋は之等の山なす穀物を陸上げすることに依つて穀物の價格の下落することを恐れて、これを悉く海中に投ぜしめたのである。フーリエーはこの事實に依つて一生の一轉期を與へられた。其後彼は社會主義者となつた。然し、斯樣な事實は必ずしも珍らしいことではなく我々の往々にして見る所の事實である。

北海道の宗谷線に沿ふた一帶の土地は、日本切つての馬鈴薯の產地である。私の友人は其處に農業を營んで居るが、或る年私は彼を訪れて、同樣の驚くべき事實を聞かされた。この宗谷線沿帶地は一帶に馬鈴薯の栽培を以てその生活の源として居るのであるが不景氣の年にはこの沿帶地一帶では其馬鈴薯を畑の中に棄てゝ了ふ。何年目毎にか、驚くべき高の富が、かうして畑の中で腐らされて了ふのである。

一體これは何故であるか。時もあらうに不景氣で大多數が困つて居る際ではないか。馬鈴薯許りも隨つて澱粉許りも、安く市場に提供されたら、國民はそれだけ助かる筈である。それを何が故に畑の中に腐らせなければならないのか

この事實は社會全體の立場からしては到底解釋することが出來ない。

二

米國のシカゴと云ふ市に於て或る人が四弗（約八圓て）で一樽の林檎を買つた。そしてそれを開いて見たらば中から一つの紙片が現はれた。それには鉛筆で次の如き事が書かれてあつた。「私は此林檎を七十五仙（一圓五十錢）で賣りましたが、あなたはいくらで買ひましたか。」と。

米國のユタと云ふ州の或牧畜者は、或日ブルツクリンと云ふ市に要足しに行つたが、或る肉店の前を通つて、其主人が羊肉百封度（十二貫目）を十八弗（約三十六圓）で賣つて居るのを見て大いに驚き頓驚な聲を出して「俺は何時でも百封度（十二貫目）を四弗（約八圓）で賣つて居るのであるが、誰が一體殘りの十四弗（約二十八圓）を取つたのであらう。」とたまげた。

我國の農商務省は數年前次の如き事實を調査發表して居る。表中に、『生產者値段』と云ふのは生產者が仲介人に賣り渡してやる値段であり、『消費者値段』と云ふのは消費者が小賣商より買ひ取る値段である。

	生產者値段（圓）	消費者値段（圓）
葱	一、〇〇	二、一〇
胡瓜	一、〇〇	一、七七
茄子	一、〇〇	二、五〇
里芋	一、〇〇	一、七二
馬鈴薯	一、〇〇	二、五九
甘藷	一、〇〇	二、一五
小松菜	一、〇〇	二、四三
林檎	一、〇〇	六、三〇
密柑	一、〇〇	三、一八
梨子	一、〇〇	三、〇〇
柿	一、〇〇	五、六九

右に依れはこれら日用品の物價なるものは生產者の手から消費者の手に渡る間に、二倍乃至六倍になつて居るのである。誰がこの間の儲けを取るか。それは卸賣商、小賣商其他の仲介者が取るのである。勿論其の中には運搬費用と目さるべきものも含まれて居る。然し、運搬費用は嚴密には恐らくその十分の一にも達して居るものでは無い。その大部分は生產者と消費者の間に介在する階級に依つて理由なくして（或は只その間に介在すると云ふ理由で）取られる所となるのである（然し、その階級の人間その者が惡いのではない。斯くすることに依つて生存せねはならぬ社會の仕組が惡いのである。

社會は何が故に斯樣な事を行らねばならないのか。社會全體の立場から見る時は、更にその理由が見出されない。

三

今の世の中には失業者と云ふものが絶えず存在する。米國政府が一九〇〇年にとつた統計に依れは米國には一年間に次の如き失業者數があつた。（因に本年は一九二三年である）

失業期間	失業者數（萬）
一ケ月—三ケ月	二五九、三一三六
四ケ月—六ケ月	二〇六、九五四六
七ケ月—十二ケ月	五六、四七九〇

即ち平均一ケ月乃至三ケ月間失職した者が二百五十九萬三千百三十六人、四ケ月乃至六ケ月失職したものが二百六萬九千五百四十六人七ケ月乃至十二ケ月（即ち全く仕事の見付からなかつた者）失職した者が五十六萬四千七百九十人あつたのである。

歐洲大戰が終りを告げて間もなく、一九一九年三月に於ける英國の失業者數は既に百萬人以上に達し、獨國に於ても同年一月には同じく百萬人に達し首都伯林許りでも二十五萬人に達して居たと云ふ。

日本に於ては今甚だしい不景氣に陷つて居る。農村から都會。都會から農村にかけて、不景氣風は

容赦なく吹き荒れて居る。中產階級は續々破產して行く。無產階級は辛うじて露命をつないで居る。日本には失業者の統計と云ふものが無いから正確なことは分らないが、恐らく現在の日本には二百萬人の失業者があるであらう。全國に亙つて幾千・幾萬の工場は閉鎖され、無數の工事は中止され、ありとあらゆる仕事は緊縮に緊縮を加へられて居る。現在の失業者數を二百萬人と推量することは、恐らくは當らずとも遠からずであらう。今一失業者が平均四人の家族を有して居るものとすれば、日本には現在約一千萬の失業に惱んで居る人々がある譯である。日本の人口は約六千萬である。其の中一千萬の人々が失業の爲に路頭に迷つて居るとは何たる事であらう。

一體何故に斯くも多數の人々が失業に苦しまねばならないか日本にはもう物の必要が無くなり、隨つて物を作る力の必要が無くなつたのかこれらの必要が減つたのか否、途方もない話だ。現在日本人の大多數は飢に苦しんで居るではないか。敢て失業家族のみならず、全人口の大多數は常に衣食住にもう少し自由ならんことを欲して能はないで居るではないか。殊に現在の日本は震災のため帝都に於て許りも約五億の富を失つて居る。この失はれたる富も出來るだけ早く生產し補はなければならない。社會は常に物を必要とし生產力を必要として居る。而して、物を必要とし生產力を必要とすること今より急なるはない。

それでは、生產力が足らず、隨つて物が足らない爲に、社會はかくも不景氣に苦しみ、多くの人はかくも失業して路頭に迷つて居るのか？否、途方もない話だ。生產力は有り餘つて休止されて居るのだ。現在存在する多くの生產機關の運轉が休止され、多くの無產者が失業して居るのはその證據ではないか。又物に就て言ふならば、社會の一方には物は澤山蓄積されて居る。物は澤山有り餘つて所有者はその賣れないのにホト〱困つて居る。今日此頃の日本にはこの物を持つて居て賣れないが爲に七轉八倒の苦しみをして居る人がどれ程あるか知れない。中にはそれが爲に破產する者も少くないのである。

かくして、社會的立場からしては失業と云ふもの、不景氣と云ふものは、遂に不可解のものである。

四

以上のことは、今の世の中には如何に不合理なことが行はれてるかを示す各一例に過ぎない。實に今の世の中にはこの樣な驚くべき不合理が數限りもなく行はれて居るのである。私は本誌前號に於て社會經濟的不合理の中の以上の樣な方面を一括して「社會的無駄」と呼び、社會經濟的不合理の他の一面たる「社會的搾取」を對立さした。）

何が故に、北海道の宗谷線の沿帶地の農民は、何年目か每に莫大な量の馬鈴薯を畑の中に腐らせねばならないか？、何が故に、東京市民は一圓の林檎を六圓三十錢で買はねばならないか。何が故に、日本國民は今日此頃かくも不景氣のどん底に苦しみ、失業の谷に呻吟しなければならないか？、

この問題に暫らく心を潛めて考へて見たならば何人と雖も、この世の中の仕組には實に容易ならぬ缺陷の存在することを想はぬ譯には行くまい。而して、此問題に尙心を潛めて考へて見る時は、敢てフーリエーのみならず社會的正義感を有する者は誰でも、社會主義者にならざるを得ないであらう。

生產機關隨つて生產物が「社會有」でなく「個人有」であるが爲に隨つて「協働制」ではなく「競爭制」であるが爲に、今の世の中には如何に不合理なこと、無駄なことが行はれて居るか！而して社會の仕組に此缺陷あるが爲に社會は如何に苦しんで居るか！

社會の生產機關隨つて生產物が「社會有」であり、社會は「協働制」であるならば、何を以てか、北海道宗谷線沿帶地の農民は社會成員の大多數の困る不景氣の年に馬鈴薯を畑の中に腐らし、東京市民は一圓の林檎を六圓三十錢で買ひ、日本國民の驚くべき多數が、社會が物を必要とし生產力を必要として居るのに、而して社會には物が有り生產力も有るのに、かくも失業及び不景氣に泣く必要があらう！實に今の世の中に於ける經濟的不合理のそもそもの根源は此處に發して居るのである。これあるが爲に、諸々の不合理な現象が各方面に現はれて來るのである。

多くの學者の計算に依れば、今のこの「個人有」「競爭制」の社會仕組を「社會有」「協働制」の仕組に改める時は、現在の科學的發達程度を以てして、社會は三時間乃至四時間の平均勞働を各人（幼者、老者、病者を除く）に課することに依つて、社會の全ての人間の衣食住生活をば十分保證して行けると云ふ。それ程今の世の中に於ては、その仕組が惡い許りに、社會的不合理、社會的無駄が行はれて居るのである。其處では

（一）現在存在する可能の生產力をもその仕組が惡い許りに十分運用することが出來ない。其處では・

（二）その仕組が惡い許りに幾多の無意味な勞働力及び生產物の消費が行はれて居るのである。

斯樣な世の中に於て大多數の人々が、その働くことに依つて貧乏から逃れやうと考へるのは、恰も・・ざるを以て水を掬はうとする樣なものである。ざる・・を以てしては幾度掬うも水は決して溜るものではない。啄木はよく歌つて居る「働けど働けど我が生活樂にならざりぢつと手を見る。」

所が今の世の中には尙不合理なことが公然行はれて居る。それは「社會的搾取」と云ふ「公盜」である。私は次號に於てこの天下御免の「公盜」に就て論ずるであらう。（完）

以後本欄は同人が交代執筆することにした。尙小牧近江氏も次よりは力作を載せる筈である。

—△

—△

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無產階級法律問答

布施辰治

問答 一

（問）治安維持法案の下に於て「集會」の自由は如何でせう。例へば資本主義社會を研究する目的を以て、一つの團體を作り時々集會することは、該法案に觸れるでせうか。尚、右の如き集會に官憲が監督する權利があるでせうか。（東京S・O生）

（答）治安維持法が愈々實施せられた後の無產階級運動はどうなるか其の戰術をどうするかは、極めて重要緊急な無產階級運動合法戰術上の研究題目だと考へる。

が、こゝには質問の要旨に觸れた（一）治安法と集會結社の自由（二）社會主義の研究と資本主義の研究、（三）臨監と集會の意義の三點に就て御答する。

（一）治安法と集會結社の自由

治安法第一條は、條文夫れ自體に示す「……の結社を組織し又は情を知つて之に加入したるものは」とある結社の自由に關する規定で第二條の「……協議を爲したるものは」とあるのが、集會の自由に關する規定であるが治安法第二條は「國體を變革し又は私有財產制度を否認するの目的を以て」と云ふ其の目的に對する取締りであつて、集會結社其のものに對する取締りの規定では無い。故に理論上の解釋としては、治安法實施の後に於ても亦、憲法第二十九條で「日本臣民は法律の範圍內に於て言論著作印行集會及結社の自由を有す」と保證せられた集會結社は、元より自由であつて、些かの壓迫干涉をも受くべき筈のものでは無い。

（二）社會主義の研究と資本主義の研究

其處で、問題は、治安法で取締る目的の意義及範圍如何と云ふ事に爲るのであるが、第一條正面の解釋としては「國體を變革し又は私有財產制度を否認するの目的を以て」之を强調する集會結社は、凡て同條に觸れる事に爲るが「目的を以て」と云ふ事は、法律上、發表から決行迄の積極的行動を意味する事に爲つて居るから積極的に（國體の變革はしばらく措ぎ）私有財產制度の否定を發意決行するもので無ければ、假りに事實上資本主義を崩壞する私有財產制度の否認を招來するやうな事があつても、同法には觸れない。つまり傾きかけた家屋を倒すつもりで引張つて倒す事はイケないが夫れを押し立てるつもりで押して居る中に倒れるのに致し方が無いと云ふ事に爲るのである。爛熟期に在る資本主義の倒壞を期する私有財產制度を否認する目的を以て、社會主義を研究する目的を以て、結社を組織したり、集會を催したりする事は、事實上其の研究の結果が、私有財產制度の否認的骨拔に歸着する事があつても、同法には觸れないと信ずる。

（三）臨監と集會の意義

最後に、警察官は資本主義の研究を目的とする集會にも臨監する事を得るやと云ふ問題であるが苟くも集會であれば、警察官は治安警察法第十一條第二項に「警察官は制服を着したる警察官を派遣し政事に關し公衆を會同する集會に臨監せしむることを得、其の集會にして政事ニ關せさるものと云へども安寧秩序を妨害するの虞れありと認むるとき亦同じ此の場合に於ては發起人に於て又は警察官の主たる會同者と認むる者に於て警察官の求むる席を供すべし」の規定に依りて、職權上臨監する事が出來るけれども、治警法第十一條第二項に從ふ集會は、決して漫然同志が集會して居た事實を指して居るのでは無い。法律上から觀た集會は、同法第十一條第一項に「結社

日本無產階級に檄す

日本無產階級同胞諸君！

日頃さへも不利極まる「帝國法律」の下に置かれて居る我々は、今や又「治法」と云ふ兇戾恰かもロシアのザアーの專制政治と何等擇ぶなき惡法の下に置かれることになつた。物言へば唇寒き秋の風は將に「神州島根」にも吹き荒まんとして居る。我等はこの重なる惡法の下にあつて、我等の日常の利益のために、更に又窮極の「輝やく我等の日」のために如何にして最も有利に戰つて行くべきであらうか。本欄はこれらの問題の爲に同人布施氏が熱淚を揮つて、今後每月、執筆せんとする所のものである。日本無產階級同胞諸君！奮つて本欄をばその生活戰途上の友とせよ！

變則數篇

小牧近江

そら見たことか

僕は本誌、發賣禁止の三月號で上に小川法相を戴く司法當局だ、治安維持法を適用する前に、「先づ以て司法官のメンタルテストから」と豫言したが、そら見たことか、人もあらうに、德川義親侯三月十一日の貴院での質問中「深川八幡前で自動車が通つたら、巡査がとがめた。自動車が通るには規則より二三寸狹い道だつたのである。常識のない執行者にかかれば、道路規則も運轉手いぢめに使つたこととなる。治安法も執行上この憂いがないだらうか」おついでに、政府當局の聲明を紹介してをきもうが、これも耳寄な話、三月五日の貴院、片岡政務次官「高等警察については今日の警察官は遺憾ながら素質が充分でない。」だと。更にまた三月七日の衆議院で湯淺凡平氏「政府はいろ〳〵と辯明はさるゝが、我國の司法官が果してこの法案の運用に當つて誤りなきものであるといひ得るであらうか」。いや、心もとない話だわい。

治安法とは？

江木官長大戰後の世界思想界は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

集會又は多衆運動に關し警察官の尋問ありたるときは主幹者、會長發起人に於て又は警察官の主たる社員若くは主たる會同者と認むる者に於て之を答ふべし」とある「主幹者、會長、發起人又は主たる會同者と認むる者」即ち一定の同會者又は主催者を、一定の日時場所に一定の目的を同ふする者の會同を促した結果の集合を指して居るのである。故に漫然同志の者が落ち合つた集會は、治警法第十一條第二項の集會では無い、と同時に、さうした集會には、警察官が臨監する事が出來ない、萬一にも左樣した法律上の集會にあらざる集會に對して、強て警察官の臨監する事は、憲法第二十五條「日本臣民は法律に定めたる場合を除く外其の許諾なくして住所に侵入せられ及搜索せらるゝことなし」の人權蹂躪であるばかりでなく、人權蹂躪の異名を有する行政執行法第二條「當該行政官廳は日出前、日沒後に於ては生命身體又は財產に對し危害切迫せりと認むるとき又は賭博密賣淫の現行ありと認むるときに非ざれば現居住者の意に反して邸宅に入ることを得ず」の規定にも背反する越權行爲である從つて、左樣した集會への臨監は之を拒む事が出來る。と同時に、左樣した集會の性質を釋明し且つ立證しても、尚は且つ臨監を敢てした場合には、刑法第百三十條「故なく人の住居又は人の看守する邸宅、建造物若くは艦船に侵入し又は要求を受けて其場所より退去せざる者は三年以下の懲役又は五十圓以下の罰金に處す」の規定に依る、家宅侵入罪として告訴する事が出來る。

問答二

（問）私は或る會社に勤めてる職工ですが私共の職工の間には組合も何も出來ておりません。馘首されたら手當を貰ふ事が出來るでせうか。（東京府下、松村生）

（答）職業は無產者の生命を繫ぐ綱である、職業の綱が切れゝば無產者の息も斷へ切れる、こゝに馘首問題の重大さがあり、失業問題の脅威があるのであるが、一寸の蟲にも五分の魂とか、窮鼠却て猫を嚙むと云ふ諺が、生の力の眞理を道破したものなら、職業の存續に、生命の綱を繫ぐ無產者も又、其の息の根を斷たるゝ馘首問題に就て、生の力を主張する權利が認められなければならないのが眞の人格本位の政治制度であり眞の生活本位の經濟組織だと確信する、けれども、現行の政治制度と經濟組織とを具體化して居る法律は、強き雇傭者と弱き被傭者との雇傭契約關係を、個人的のものとして居る爲めに、個人としての保護を受くる解雇手當は、會社工場の規約があれば、其の規約通りの手當が取れるし規約が長ければ民法の規定に依る二週間分の手當が取れるだけである、けれども、會社工場の勝手に定めた規約の手當や、民法の規定に依る二週間分の手當位で、無產者の生命の繫ぎ代への出來る筈が無いのだから、飽迄同病相憐み、同境相親しみ、同階級相團結する組合の力に依つて、斬り捨て御免の馘首に備ふる解雇手當要求の陣容を整へて置かなければならない。

問答三

（問）私は最近某會社に於て、勤務中負傷した一職工です。かなりの傷だつたのですから入院加療を受けましたが、其の入院費が三百餘圓に達し、如何とも、いたし方がなくなつております。職工長が個人として金五圓を見舞ふたのみで。會社からは一文の手當でもありません。私は會社から入院費を貰ふ事は出來ないでせうか。診斷書其他入院費證等は所持しております。（大阪K・S生）

（答）勤務中の負傷に就ては、不完全極まる工場法でも之を保護して居る。勤務中の負傷にして、負傷者の重大の過失に基くものでさへなければ、工場主に何の過失なく、其の設備に何の缺陷が無くとも、職工の負傷を治療すると同時に、治療中の生活を保障し、且つ夫れでも全癒しなければ、之を賠償しる義務がある、故に負傷の如き勤務中の負傷は、其の治療に何百圓かゝらうと、會社の負擔すべきもので、苦しい中から無理算段して自辨する必要が無い、既に自ら之を支辨して置いたものは、其の計算書を證據として立派に請求することが出來る。

問答四

（問）發賣禁止を受けた雜誌を個人が所有して居る時、官廳が之を、押收して行くことが出來るでせうか、又押收された際は、損害賠償を要求する事が出來るでせうか。（茨城、吉田生）

（答）雜誌の發賣禁止は、讀んで字の如く、賣らんとするものに對して、其の發賣を禁止することであると同時に、其の押收も亦發賣の目的を以て、所持するものに對してのみ之を爲し得るのである但し法律は賣ることを賣るとに云はずに、頒布すると云つて居る。故に賣る目的で無くとも、異れる目的で所持して居るものは、法律の所謂頒布せんとするものに當るから押收も受くる事に爲るが、全然頒布の目的を有せざる自用の爲に所持するものを押收する事は出來ない。故に所持者さへにも斷じて押收を拒めば、押收せらるゝ譯が無けれども、ダマして押收せられたら、之れが取戾しも出來るし損害賠償の請求も出來る。

幾多の變遷を經て、今日は大體に於て、漸次安定しつゝあるの事實で（三月六日）

清瀨代議士——本法を誤解してゐるのは却て政府であるのに、國民が誤解してゐるなぞとは以ての外のことである。（三月三日）

前田委員長——國體變革は極めて重大な問題である一刑事局長の辯明、何等の權威あるものでない。（三月六日）

清瀨代議士——先年過激社會運動取締法案ノ場合、保守的な貴族院さへ三年に修正された。政府がこれに十年の酷刑を以て臨まんとするのは何ごとか。

自首したものを減刑または無罪としたのは、スパイの奬勵である國家將來のため危險なるスパイ政策は是非削除せねばならぬ。（三月七日）

原夫次郎代議士——代議政治は讓步政治である。司法大臣はコハイ。そう憤らずに……

小川法相——只今は多少冷靜を缺いて居つたかも知れぬ。お互に眞面目にやりませう（三月七日）

若槻內相——過日本委員會において、川崎警保局長の述べたことは、私の見るところと異るから、これを取消す。

清瀨一郎氏——それは治安維持法案反對にロシア方面と關係があ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現下の政治的推移は吾々に何を物語るか

鈴木厚

一、議會主義

議會が、優勢なるいづれの政黨によつて占有されようと、現在の事情の下では、其れが支配階級たる資本家階級の一統治機關たることには變りがない。特に我が國目下の實狀より見れば、其れが直接國税何圓かを納めてゐる者の間から選出されてゐるといふ點では、露骨に吾議會を稱してゐる總ての代議士が、一人たりとも有産階級の代表者でないものはない。と同時にこの場合に於ては、議會が有産階級統治機關たることは、最も明白なことであつて、おそらく何人にも理解し得ることであると考へる。

然しながら今や問題となつてゐる普通選擧がたとへ實施されても、而して多少無産階級の代表者が、議會に送られても、其のことは毫も其のやうな議會の特性を變へるものではない。既に普通選擧が實施されてゐる諸先進國に就いて見れは其れは明白なる事實である。其れ等の國に於て吾々は反つて、黄金萬能の横行の甚だしきを見る。其れ等の國に於て吾々は反つて資本家階級統治の極度なるを見る。これは議會主義が、如何なる程度にまで進展しても、現在の事情の下では、結局資本家統治の機關たる職能の範圍を出でないものだといふことを立證してゐるものである。實に現在の議會主義とは、資本家統治の機關なのである。而して私が茲で言はんと欲することは、かくの如き特性を有する議會主義なるものが、今吾々が目前に見聞するがやうに、いよ〳〵純化され、いよ々々擴大され行くといふことは、畢竟資本家勢力の社會的政治的確立と擴大とを意味するものにほかならないといふことである。

二、政務官の新設

政務官とは何か。

其の解釋に就いては、貴族院に於て既に、花井卓三氏と財部海相との間に、皮肉まじりの問答があつたやうだが、今私は其の問答を茲で引用し繰り返さうとするものではない。たとへ政務官の職能が、軍事的秘密的秘密會の内部にまでは及ばないものであつてもいい。世間の風評のように或は其れが、大臣級の人物に、大臣相當の地位を與へる爲めに設けられたものであつたとしてもいい。其れが多少なりと何らかの職能を有するものである限りに於て、其れが有産階級の代表者である限りに於て、また從來は存立しなかつたが、議會主義の確立と同時に設けられたものである限りに於て、まさに吾々の論評の一對照とはなり得るのである。

從來は戰爭——日清、日露、歐洲大戰等のいづれの場合にせよ、其れは多少軍閥によつて遂行され軍閥によつてのみ管理されて來たと觀なしとはしない。これが最大の原因は、明かに資本家階級が、未だ社會的政治的實勢力を占めてゐなかつた其の爲めである。而して其れが社會的政治的實勢力を占めてゐなかつたことの原因は、日本が資本家生産の變態的發達をなしたものであるといふ點に歸省せしむることが出來ると考へるが、兎に角に現代の戰爭が、本來は資本家階級特に一部大資本家によつて遂行され、管理される性質のものなることは否定である。其れは歐洲大戰の際に、アメリカに於て參戰可否が問題になつた時、優勢なるアングロサクソン系の資本家連が、獨逸系の少數資本家の主張を排撃なし、自己の利益を支持せんが爲め、遂にアメリカをして英佛の戰線に參加せしむるに至つた實例に就いて見るも明かである。即ちかく戰ひは開かれ、屍を以て埋めた新領土に、一と度び講和條約が結ばれ、平和の風が吹き來れば、資本家の一隊は、其の領土に繰込み、其處に大會社なり、大工場なり、大鑛山なり、大農場なりを開設なすを常とする。而して國内に於ては小資本の吸收を行ひ、何らか發展の餘地を見出さんと齷齪なしてゐたところの其の種の資本家の一隊は、そこに於てます〳〵資本の增殖を行ひ、これを國民の福利なりと稱する。或はまた國民經濟の發展なりと稱する。而して其の結果は、國民をして日々に軍隊組織を讃歎せしむるに至る。

然しながら吾々は、今かくの如き事態の下に、現代社會に於て、畢竟一小社會階級としての軍閥が、一會社に於ける事務員や技師と等しく資本家階級に對し從屬的なるものなることを看取すれば足る。

而も政務官が陸海軍大臣文官制

るかのやうに言はれたことであるか。

若槻内相——そうである。（三月七日）

矢吹省三男——さきに衆議院に行はれた鬪亂を見るに、代議士たる人でさへ、あの通りである。これを以て、尙國民は政治的訓練があると見られるか。

普選案を提出せられる此の政府には治安維持法案を見合せられてはどうか。（三月五日）

若槻内相——自由平等主義から本案（普選案）を提出したものでない。（三月五日）

田淵代議士——現政治下に於ては、憲法の改正が不可能である。然るに、此法案は憲法破壞を豫想して居る矛盾ではないか。

結社の自由は法律の範圍内に於て認められてゐる。然るに、政府は命令的惡法を出して其の自由を壓迫するは不當ではないか。（三月七日）

菊池代議士——私有財産には皇室の財産が含まれてゐるのか。（三月七日）

湯淺代議士——過激社會運動取締法にあつては外國と通謀して云々と云ふ風に其の範圍が限局的であつたのに、治安法にあつては、國體、政體、私有財産の三つの要素に亘つて之を否認するものを處

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の前提であり、議會主義の擴大であり、從つてまた有産階級勢力の政治的一表明である限り、以上の如き現象は、今後ますます露骨になると思はれる。それと同時に、昔は町人階級として卑しめてゐたところのものに、武士階級たる軍閥が、屈從せざるを得ない時勢に迫られてゐるといふことは論ずるまでもない。されば政務官とは何ら疑ふ餘地なく資本家階級の軍閥勢力蠶食の一表明である。換言すれば其れは完全なると不完全なるとを問はず。軍閥監視役お目附け役なのである。

三、貴族院改革

吾々が茲で貴族と稱するのは、世間の所謂華族の一般をさすのである。而して茲では其の代表的なるものとして、領主貴族を對照として考へて見度いのである。

何人も知悉するがやうに、貴族階級支配の時代は、封建社會で現在社會ではない。歐洲に於てはフランス革命以後、日本に於ては維新革命以後、貴族階級の支配權は潰滅され、資本家支配權が確立された。而して日本に於ては維新革命後の偉傑として「廢藩置縣」が斷行されるや、大小領主は、其の收容された領土の代償として、皆爵位なるものを賦與された。これが我が國に於ける現在華族階級の中の代表的なものとなつた。然しながら爵位は、寧ろ政治的精神的尊稱物であつて、多く物質的經濟的特權を賦與されてゐるものではなかつた。されば必然的な成行からして、それ等の有爵者、貴族階級人は、新社會に如何に生活を適應せしむ可きかといふ重大な問題に逢着した。彼等の中の或ものは所謂「武士の商法」で、忽ち無産階級同樣な生活に墮落したものもあるかも知れないが、からくも舊生活の外殼をビ縫し得たるものと雖も、先づ大會社の株主たり、大工場の投資家たらざるを得なかつた。最も露骨なのは、自己の爵位によつて、富裕なる資本家との結婚政策に出た。少くとも彼等が、社會上層階級人としての生活を、變革の後尚は維持し行かんが爲めには、如何にしてもしかく生活樣式を變化しなければならなかつた。これはいふまでもなく社會進化途上に於ける大なる社會劇であつて彼等はかくて最初は半ブルチョア生活に、今日では早くも貴族とは名稱のみで其の實質は全然ブルチョアである生活に入り込めるものであつた。

されば貴族階級分子の實質に、殆ど全くブルチョアへの分化作用が行はれた今日、其れ等のものの代表機關である貴族院が、衆議院に對し、何らか優越權を有してゐるとしたら、其れは同一階級に屬する二個の機關といふ見地よりして、甚だ不合理なことになる譯である。而も本來資本家統治の特性は、統治機關の單純化にあるのだ。貴族院に限らず、軍隊組織にせよ官僚組織にせよ、出來るだけの單純化、世俗的には「節約」が行はれるのが常である。この大規模なる現はれは、ワシントン會議の如きものである。加之、また一方に於ては、議會主義の理論は少くとも當初に於て、貴族院より其の領主的勢力を驅逐し、これを純粹ブルチョア政治機關に轉化せんとするものなるが故に、社會階級として貴族階級が衰滅し了つてゐる今は何らか其れの改革案の上提されるは當然である。

故に現在の貴族院改革案が、如何なる内容のものであり、如何に低き程度のものであるにせよ、議會主義の確立される迄では、將來ますます此の種の改革案が上提されるに相違ない。ことは火を見るよりも明かである。それ今故吾々は今度の貴族院改革を、政務官の新設の場合と等しく、ブルチョア階級の社會的政治的勢力の擴大乃至は確立の、現はれにほかならないと思ふ。ブルチョア階級による貴族階級の壓迫の現はれであると思ふ。

普通選擧に就いては、前號に述べたし、再び其れに就いて細論なすと、あまり長くもなるから書かないが、以上述べたこれ等の事實は、明確に日本が今や、やうやく社會的にも政治的にも、資本家組織に純化されて來た證左である。所謂第二の維新たる所以である。

しかし吾々が注意しておく可きことは、單に普選實施といふ理由の下に、現在の時勢が第二維新なのではないことだ。

飢うる日

直平

□
あはれこの
もてあまし者のいのち一つよ
ひしと抱きてキスをしてやれ

□
斬りてなほ焼きてなほ
あきたらぬくやしさのあり
もがく術なし。

□
かの重役の
いやしき目つきと口髭が
赤貧のもと、失業のもと。

□
うえはさびしきものぞ
「よし來た」と
わけもなき事に腕振つて見れど

□
うえし目に
交通巡査の眞面目さが
おかしくなりて暫しみとれる。

罰せんとするものであつて更に範圍が廣くなつてゐる（三月七日）

横山金太郎代議士――本法は惡法でなく、又過激思想取締法案よりも遙に勝れたものである。

武藤山治代議士――我國思想の動搖を來せる主なる原因は過去に於ける我政治が國民經濟を誤りたるためであるが故に、國民思想の動搖を防ぎ我治安を維持せんとせば、其の根本原因に遡りて先づ之を改善すべきである。（三月七日）

武藤金吉代議士――資本家は甚だしきは七割も配當し居るにも不拘、社會政策が、どうのといふ議論を爲す政治家があるに至つては片腹痛い。（三月十日）

中村啓次郎代議士――目下の社會狀態を見るに、暴力横行し、政府其の取締をなし能はず、治案は亂れ放題であるのに拘も、此法を出して治安を維持しやう、などとは潛越至極である。（三月七日）

金子醫學士（警務課）――今日のやうに、經濟上の不安と日がだんだん長くなるにつれて、失業者などの内に、恐ろしい強盜の慘虐が生れ出づるのではないかと私は見てをります。（東日三月十四日）

議會閑話――治安法案の討論中に勞働黨の實行委員が先づ

端書回答

說明文

全日本無產階級の反響も、帝都に於ける無產階級鬪士の旋風に等しき必死の運動も皆効なく、前古未曾有の「惡法案」は遂に施行さるゝことになつた、同法の衆議院を通過するや本社に於ては各方面に左記の問ひ合せ文を出して見た、問ひ合せの文句簡單に過ぎたる爲或ひは吾人の意の徹しなかつた點もあつたようであるが、然し以て一般の覺悟を推知するに足ると思ふ

問合せ文

今後の無產青年の使命に就て御高見を承り度く候

須らく犧牲となれ

北玲吉氏

一身一家を犧牲にして、深刻に眞劍に活動する外なし。出來得るならば斷じて一家をなさず、獨身にて天下を浪々するの意氣なかるべからず。完全なる社會は何れも子孫の爲めに美田を買はずしても社會が生活を保證するか、何れも良心に背かずして美田を買ひ得る社會ならざるべ可らず。今日に於ては、社會の爲めには個人を犧牲とせずは、眞の道德家たり難し。

創造に生きよ

帆足理一郎氏

無產青年のために。

(一)「稼ぐに追付く貧乏なし」とは決して古臭い格言ではない。如何なる職業にあつても、それに勤勉であることは、それに興味を見出すことであり、興味を見出すことは、それに創意を働かせ、それを藝術化することである。

(二)、酒、煙草の惡習慣に陷らず、金錢を以て異性を奴隸化することなく、得たる所得は如何に零碎なものでも自分の精神生活を向上さすために役立たしめねばならぬ。

科學的智識を養へ

山川亮氏

我國の無產青年――殊に農村の青年には、何よりも先づ科學の智識を吹き込むことが肝要だと思はれます。無產青年の大多數は、未だ科學的な研究はまるで缺けてゐると云つたら、怒られるかも知れませんが、悲しいかな之れは事實な樣に思はれます。我國で科學雜誌の發行される樣になつたのは、極めて最近で、之れ迄は僅かに一戸直藏博士の東洋學藝雜誌が僅に少數の智識階級に讀まれてゐたに過ぎません。無產青年の大多數は科學から全く絕緣されてゐました。プロレタリアの政治運動も、必要で缺くべからざるものですが、同時に科學の智識を無產階級に吹込んで頂きたいと思ひます。その理由は無產階級の將來は、科學的基礎に立てこそ初めて、充分の發達が出來るのだと思ひますから、迂遠な樣でありますが、社會主義の種を蒔く前に、先づ地ならしをして、科學思想の普及が必要の樣に感ぜられます。ネツダノフ型の革命家であるよりは、バザロフ型の科學者が、今暫らくは必要なのではないでせうか。

純心な感激に訴ふ

新居格氏

肅然としてお願する。

今後の無產青年の使命に就いて意見を吐露する前に、我々無產壯年や更に我々より年老ひたる無產老年の使命に就いて眞劍に考へなければならぬ。語を寄す、無產壯年を而して無產老年。君達は自分の使命をどう覺悟してゐるのか。無產青年から大きな口をきくな、反問するが「君達こそ覺悟してゐるかね」と言はれても少しもたぢろかぬもののみがこの問題に回答する資格がある。自分自身の使命に對する決然たる覺悟なくして青年に敢て言ふのは潛越の感がある。我々は先づ我々の使命を考へねばならぬ。無產青年諸氏に對してはただお願するより外はない。未來は全く諸氏の手に屬する。諸氏の純眞なる感激と、勇敢にして不撓な馳突力とが本當の事を完成するのだ。青年の使命は青年達自身が僕などよりどんなに強く、堅く、熱情的に意識してゐるか分らない

衆議院に押掛けて來た。之を見んものと二階の控室や廊下から代議士連が首を出してゐる時に檢束が初まつたので甲代議士「巡査でないもが檢束して行くがあれは何だ」と聞く乙代議士「アレはみんな刑事なんだ」丙代議士「ホホーアンなに澤山ゐるのか、これだから田舍は泥棒が絕えないのだ」。(東朝三月九日)

山脇貴族院議員――社會主義運動の中には無政府主義もあり、共產主義もあり、種々雜多である。而して、之れが理論だけなら別に恐いものでない。(三月十一日)

加藤首相――輿論は國民の選良言論界の論調でも解るし、又人心の趨向を認めて進むのが政治家のおもむくべき途である。(三月十日)

永田貴族院議員――若し、言論機關が輿論を代表せるものとせば治安維持法の如きは、國民の輿論に反逆した法案である。(三月十二)

岡前總監――本案通過の阻止運動につき議員等に過激な文書を送るものあり、これらの取締如何。(三月十七日)

小川法相――專ら犯人の發見に注意しつつあり。今回は主も共產主義及無政府主義の取締も規定するが、軍紀紊亂者に對しては後日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私はそれをその人たちに指摘する力がない。我々は我々だけの力で戰ふが、青年達こそ本當の强い力でやつて呉れるだらう。その使命は大きい。それ丈に骨が折れる。それを望む僕などは敬虔なる態度で肅然としてお願するだけだ。まして今後は戰ひが迫つて行くのだから。

本體を沒却するな

春田正氏

目下多忙中で普選と治法の中に狹つて、現無産青年は如何なる態度をとるべきかの問題に對して充分考へてお答へ出來ない事を殘念に思ひます。しかし次の二點だけは言へると思ひます。

（一）今後一般無産者の心的傾向は一は極端なる悲觀主義即ちテロ化で他は言ひ古されて今では社會主義市場で餘り見かけない言葉であるがリベツ化でせう一般に日本人の性質は喜び、且悲しみ、感じ且覺めるに急速な人間です。隨分テロも出るでせうし又社會主義に冷淡なリベツ化も行はれるでせう

（二）、併しテロはその心理的に見て否定は出來ないでせうが一般無産運動の爲にはどうか。

又一般無産青年の偉大なる使命は滔々として大衆を名とし、實際を名として往々にして本體を沒却されるであらう。今後の運動の中にあつて、來る日のために一脈の生氣を保たしめ本體の擁護者となることでせう。

名よりも實

藤井眞澄氏

「名よりも實を取れ」この一言に盡きてゐると思ふ。

敵の組織に喰ひ込め

神道久三氏

一、無産青年の使命と云ふなら無産階級の歴史的使命を果す爲に戰へはい〻。

二、當面の問題と云ふなら

（イ）先づ全國的機關を設ける事が急務。政黨が出來たら其の指導の下に屬す。

（ロ）官製青年團在鄕軍人團等敵の武器の中に深く喰ひこむ事。敵の中に現にあるものを利用する事

（ハ）農村は今のところ敎化運動

（ニ）大都市、工場地は敎化並に反軍國主義、反フアスシスト運動を組織的に行ふ事。對策を講ずる事。

無産結社の創設

長沼明氏

我等は今後の無産青年諸君に對して

一、完全にして生産的方面にも或程度まで勢力ある無産結社を創設すること。

二、犧牲的行爲に就いて寧ろ本質的價値を見出すこと

（一）、は從前の言論戰より準備行動に入る當然の條件として、（二）、はブルの挑戰に對して勇敢に應ずる爲尙大陸的なる事專一と存じ候。

農村的新世界を創れ

室伏高信氏

有産階級を仆し農村的新世界をもち來らすにありと存じ候。

未來は青年のもの

水野貝三郎氏

吾等プロ青年は先づ思想的に獨立し、過去の傳統と因襲から完全に解放されなければならぬ。その爲には階級意識にハツキリと目覺めたる無名の青年は、常に官製青年團の內部に喰ひ込み、無自覺なる青年にソート、プロパカンダをつねにおこたつてはならん。そして覺醒したる無名の青年自分自身の手によつて青年團を造り・自治の精神を養ふと共に「未來は青年のものと目印を定めて突進しなければならぬ」。

革命的情熱へ

吉田一氏

僕としてはいま明確にその使命を提示する事は困難に感じます。要は無産青年の根本精神に屬するものと思ひます。革命精神の捉われてゐない青年にとりて何が出來やう。もうその青年にして革命的情熱と其の遂行力を有するならば時と處に應じてその情勢の變化を見て、その手段を自得するに相違ない。例へば治安維持法、普通選擧法等の通過に伴ふその青年の主義的傾向と革命的情熱の程度に從つて、その運動の現はれる形は違ふ。

斃れて後止む

環不朽氏

眞正なる大衆の熱狂的、輿論も無視して「公的暴力」の毒刄を拔いて惡法案が通過した事が實現された。

咄、呪ふべき大正の十四年度。慘虐なる「專政恐嚇の政治」を施かる〻暗黑の時代が來た。今や眞に考ふべき深刻な場面に置かれた全日本無産階級、白刄を頭上に壓迫に迫害、戰線はより多く惡戰苦鬪だ。眞劍に挑戰すべき時代が眼前に迫つた。今後の我々無産階級の使命こそ重にして大である。最早俺は覺悟してゐる。爲すべ

其の條に從ひ適當なる方法を取るだらう（三月十七日）

澤柳貴族院議員——二千六百年から皇統連綿なる萬世一系の天皇が君臨せられるといふ美しい歴史を有しゐるが我國體に此治安維持法を果して必要とするか。

小川法相——國體の變革を期するやうな不穩な者が遺憾乍ら出て來たのである（於貴院三月十一日）

小川法相——遺憾ながら、國民中には恐るべき無政府主義者も多數あり、近來は更に恐るべき共產主義者も非常に增加しつつあるを以て、國民思想が健全なりと斷言さるるのは餘りに樂觀に過ぐるものである。（於衆議院三月七日）

熱涙合掌す

今や眼には見えざるも干戈を交へる以上の思想の戰爭中である、今や猛火焰々たるの世相である。此際僧侶たる者は恰も其消防夫を以て自ら任ぜねばなりますまい。然るに、無爲徒食のみならず賭博を打つて警察官の御厄介になつたり兄弟牆をせめいで裁判所の御厄介てなる寺の僧侶ありとせば其は宇宙の空氣を惡化するの因となり神聖なる議政壇上に於て暴力を逞しふして神國を瀆す一部議員も罪惡と相待つて天災地變の火元を作るに値する國家的罪惡也と斷言して憚りませぬ。熱涙合掌南無妙法蓮華經。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

き事に就いても明日に現はさずとも、諸君はすでに知つてゐるはづだ。我等の陣容を固守して「死して後止む」の言葉をモツトーに無産階級の爲に戰へ。正義の刄を持つて。

團結の外なし

佐伯新助氏

現在の資本主義制度は經濟的に滅亡するか、或は是を變革するかに依つて再び死活するかの分岐線に立つて居る。此の切り崩す立場にある現在の制度、これを根本から改造せんとする者は肉體と共に滅び行く封建的分子ではなくて、創造力と批判力の明晰とを持つた我が若々しき無産青年の歷史的使命である。此の使命を實現し光りある新社會を建設するには青年の團結を他に何ものもない。

閥を葬れ

佐々木有三氏

未來は無産青年のものである。從つて無産階級解放の重大な役目をもつてゐるものは、無産青年である。數年前吾國の社會運動に於て、相言葉とされた「無産者の解放は無産者自身によつて」の意氣を、今亦茲に再び繰返したい。が然し、茲で云ふ無産者自身の運動は決して往年の如き急進智識階級の排斥であつてはならない。排斥すべきは、むしろ、社會主義者閥である。閥の目的は、閥自身の來るべき政權の獲得であり、その手段は、無産階級をダシにし、踏み石にするものである。結果はむしろ資本主義社會より恐るべき、專政であり、暴政である。私は彼等閥は當然、吾無産階級運動より葬らるべきものであることを信ずるし、又今後の青年は決して彼等に組すべきものでないことを信ずる。來るべき社會は無産青年のものである。從つてその解放運動も無産者自身の組織と力から生れたものでなければならない。

唯一つの使命は團結

倉本晃南氏

今後の無産青年の使命に就て意見を承はりたいとの仰せであるが、小生プロ階級には勿論學問など云ふ惡意の持合せがないから書くだけの智識を持たぬ、而し俺達は農村に在るを以て、農村無産青年を言ふ、先づ俺達無産青年は一致團結が必要です、團結より外に大なる處の力は得られません、農村疲弊の恢復は團結力が第一の武器である、農村經濟の今日の衰退は資本家即ち金融機關が生んだ罪であると思ふ、茲に於て俺達無産青年は固き決心を以て、農民運動、社會運動に投じ、吾目的に達する迄奮闘することが、それが俺達無産青年の唯一の使命であります。

日本無産青年黨の樹立

山根世紀氏

普選も治法も通過した今日、在郷軍人會、青年團、消防隊、學校等に施される軍事教育の完全せんとする今日、無産階級團體の、ホノボノとして右傾し、ブルジョアデモクラシーに仰合せんとしてゐる今日、吾々無産青年の使命の更に重大なる事を悟らずにゐられません。吾々は直に各地に無産青年の思想的結社を起さねばならないと思ひます。そして之れが全國的に組織して日本無産青年黨を樹立せねばならぬと思ひます。勿論旗印は反軍國主義運動にあると思ひます。そして極力所謂政治運動、經濟運動に其の中心勢力とならねばならぬと思ひます。

搾取の無い世界

千葉龜雄氏

いかなる意味に於てもの、「搾取」の無い世界を建設するための努力。

○○機運の促進

林仕賢氏

全國否、全世界の無産者を階級意識に目覺しめて、敵の牙城を目標とする○○の機運の促進であると思ひます。

着實にやれ

吉川長太郎氏

今日迄吾々無産青年の運動は、上辷りがしていたかの感じが致します。

（一）思想運動の方面にのみ力を注いで組合運動を閑却した事。

（二）思想運動上の全國的連絡が取れてゐなく、強固な根底がなかつたこと。

（三）組合運動と餘り懸け離れて進んだこと。

今後は普選の實行、治安維持法の制定によりて右傾墮落をするのを防止しなければならないと思ひます。

（一）全國的に組織だつた連絡を取ること。

（二）大衆の中に入る事。

（三）組合運動の中堅となり、政黨と密接な關係を持續して、政黨の墮落を防止すること。

今後吾等の前途は戰線が擴大すればする程多端なことゝ思ひます。

共同戰線へ

布施辰治氏

無産青年の使命として、私の第一の希求するものは、全無産階級の共同戰線である。同じ無産階級運動の戰線に立つて居ても、其の戰線を異にする特殊な立場々々の實際生活や、利害や、行きがゝりの囚はれを餘儀なくせられ勝ちな老年者中年者は容易に共同戰線を張り得ない。其所へ行くと、無産青年は、其の屬する戰線を異にして居ても、所謂青年としての實際生活上の利害や、行きがかりやの立場に囚はれない共通の自由がある。故に全無産階級運動の共同戰線を張るに、最も都合の良い立場に居るものは無産青年だと信ずるからである。

目差すは敵の牙城

權藤誠子氏

とう〳〵治安維持法も通過しましたね。私ども青年男女はこの障害物に對して、新しい戰術を考へなければならないと思ひます。半世紀前ドイツで類似の法案が出ました時、彼地の同志のとつた方法にも私どもは多く學ばねばならぬ點があると思ひます。私どもは、今輕卒と不用意とで人の攻

暇のみに日を送つてる時ではないと思ひます、私共は多く學ばねばなりません。考へねばなりません。そして互自身々々の力を養つた上で一擧して敵の牙城にせまる時を待たねばならぬと思ひます。

要は大衆教化

瀧澤要平氏

我々は現社會の經濟組織をはつきり見極めその矛盾を眠れる民衆の前に分解し徹底的敎育を施し以て大衆をして最後の目標に向つて突進し得る樣指導敎化することこは今後の我等青年の大使命と信じます。

無產青年に要求するもの

山本宣治氏

○明治うまれの日本人の骨髓に叩きこまれたブルジョア敎化の影響を減じ、やがて全滅させる爲に必らず不斷の反省と努力。

○ルムペンプロレタリア根性脫却淺薄な英雄崇拜や「けツのあな」の狹い繩張爭ひで扨ては前世紀の遺物たる嫉妬心の征伐。人の惡口をいふたとて自分はちつともエラクなれはせぬ。

○木の芽だちの頃や又はこがらしの頃、其他失職したからなどゝ突發的にきざすテロ衝動の如き一攫の山カンをさけ新しい傾向を作る大衆の一員として無名に甘んずる處のヒロイズム。

農村に止れ

飯野狂生氏

自己の從屬してゐる工場會社農業自總ての職に離れざることである。近頃階級意識に目覺めんとする地方青年は一部運動ある原則を無視し己の職を捨て直に東都に走らんとす。中央にあらずんば社會運動なきが如く心得居るは甚に遺憾至極である。尤も資本主義のからくりを知つて尚も搾取の屠場に赴くは如何にも苦痛であり且[illegible]であり又矛盾の樣だが、生產機關から離れてはいけないと思ふ。何故ならば永い失業は各自の宣傳力を失ふばかりでなく生活を破壞し己の魂までも暗殺するからである故に從屬機關を離れず其の內部を喰ひ入りあらゆる機會を利用し宣傳に煽動に階級鬪爭といふ無產階級の一大信念を植つけ一今たりとも同志をつくり之れと團結して敵に當る事こそ今後の無產青年の使命であると思ふ。

慈悲の實珠

津田光造氏

御返事

三千大千世界の價と丁度匹敵する一ツの實珠を無產青年は持て居る。これは慈悲だ。それを失はぬこと、及びそれを發揮することが今後の無產青年の使命だと思ふ。

暗黒時代に—當面して

牧生

（一）

暗黒の時代は來た。吾々がかつた、人間がお互ひに話す事の出來た言葉さへも今は完全に言ふことが出來ない世の中に、ぶつつかつた。人間と生れて、而も文明と云ふ世の中に生れて、之れ程不自由なことは又とあらうか。吾々の先祖の多くの者は、無產階級は、今まで何百年となく、搾取と云ふ鐵鎖の下に、手も足も、それのみか心までも縛られて來たのである。そして今完全に話すと云ふ自由さへも奪はれてしまつたのだ。人間と生れて之れ程の不幸は又とあらうか。生きながらの墓場、禽獸の世界にも劣る世の中とは、實に今の社會のことである、時は二十世紀場所は日本であるとは何んと云ふなさけない事であらう。傳統者流の言葉を借りて云へば「吾々は祖國を愛するの自由さへも奪はれてしまつたのだ」人間は生ける屍に等しく燃ゆる赤旗の下に只、死の沈默のみが空しく續くこの息づまるが如き苦惱沈默が一體いつまで續くだらう。否、吾々がいつまでそれに堪へ得るだらうか暗黒の時代は來た、恐怖の時代は來た吾々の眼の前には、氣味の惡い寂しげな微笑を浮べた牢獄と死とが、待つてゐる。

（二）

吾々はどうしても、この暗黒と恐怖の闇を切り開いて進まなければならない、だが、そこまで進む間には、光明と理想とに胸を燃やしながら空しく死んで行く、幾多の無名先覺者の犧牲あることを覺悟しなければならない。實際、いつの時代に於てもその革命の踏石となつて、解放の光も見ずに暗黒時代の犧牲になるのは無名の青年である。私はかうした青年達の果敢ない、而も酬はれざる生涯を想ふ時、肉身の者の死以上に悲しまざるを得ない、然し乍ら、かうした「お互ひ貧乏のない幸福な愉快な社會を作らう」として人道のため死を賭して鬪ひ而も、やむ時もなき迫害に次ぐに死をもつて、あがなはれる、幾多無名青年の犧牲、尊いものは又とあらうかそして、今この酬はれざるながらも尊き犧牲の最も必要とする、やむを得ざる時代一つの階級に至つたのである。

（三）

プルジョアの法律は吾々に向つてかう云つてゐる、「何？私有財產制度を否定しなければ、無產階級の解放は、絕對に出來ない」それならそれでよいさ勝手に云ふがよいよ、只要は十年も監獄にぶち込むだけさ」と。何んと云ふ無法さだらう。何んたる暴虐さだらう然し、世の中は廣いけれど手も足も出ない樣な人間ばかりでもあるまい。

「お前達、お前達で勝手に法律を出すさあ。どうせ敵だもの、覺悟はして御座るよ」と云ふ人間もないでもあるまい。

まあ問題は、その時、時の事でどうなるとも[illegible]されないが、まさか貧乏育ちの、無產者とても續る何百年の、父又父からの仇敵に對して、今更泣き入れし、佗びる者もゐまい。

（四）

玆に至つて、吾々はこの暗黒の時代に直面して、何を成さねばならぬか、又如何なる態度を採らねばならぬかと云ふ問題を考へなければならない。然し乍ら[illegible]の事に就いては、恐らく誰しも云ひ得まいし、又云ふべき事ではないと思ふ。まあ宣傳禁止の世の中、各人の自由意志に訴へ[illegible]せるより外はあるまい。只私は次の二つの言葉を知つてゐる。

（一）一人から一人へ

（二）眼がものを云ふ　（完）

寫眞器を貰つた日のこと

●「進め」社では今回寫眞器を同志より寄贈されたが、其時のことだ留守番をして居たTとMとが其寫眞器を受取つたが、二人はその價に就て議論を初めた。Tは二十五圓の値段をつけMは三十五圓の値段をつけた。TもMも未だ曾つて寫眞器と云ふものを持つたことがないのだ。二人は互に相讓らず頑張り合つたものだ。●所が、そんなら寫眞屋に行つて聞いて見やうと云ふことになつた。二人は件の寫眞器を後生大事と抱えて寫眞屋に行つた。●寫眞屋に行つて聞いて見たらばこの類の寫眞器は百二十圓だと云ふことになつた。二人は顏見合せて如何にも意外さうに驚いた。寫眞器つて[illegible]あ。[illegible]よく歸つて來た。[illegible]は欣々として後生大事と抱へて居た。（捨丸）

愛する黒き三同志

●我が「進め」社には先づ人並以上色の白いと云ふ人物は居ないが、どこへ出てもヒケを取らぬと云ふ（黒い點に於て）定評のある色の黒い人物は三人程居る。渡邊、辻山、谷口の三君だ。全くこの三人は見事に黒い。●だが同志諸君、誤解しては[illegible]ない。[illegible]から來た人物[illegible]生粹の日本人である。只だ色が[illegible]よりも黒いだけである。●然し、男振りは三人とも實に男[illegible]へ。丈は二人は小男で、一人は無鐵砲に高い。頭腦は三人共甚だ明晰、前途有望である。俺はこの我が愛する黒き三同志と共に、日夜働いて居る。先は。（捨丸）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本主義にトドメの刺される時は何時か

渡邊信義

資本主義は行詰つた！資本主義は行詰つてゐる！これは多くの人の口に上るところである。そしてまたこれ迄上つて來たところでもある。

共産黨宣言の中にも、「……勞働者は窮民となつて行く。そして貧窮は人口や富以上に急速に發達する。此處に於て資本家階級は最早社會の支配階級たるべく、一つの超法則の如くその存在條件を社會に强るべく不適當な事が明瞭である。何故なれば、資本家階級はその奴隷制度に於てその奴隷に對してその存在を保證する事が出來ずその奴隷が資本家階級に依つて保證せられる代りに、自ら生活を保證せねばならなくなつたやうな斯る狀態に陷らしめるを得なくなつたからである。社會は最早この資本家階級の下に存在する事が出來ない。換言すれば、資本家階級の存在は最早社會に適合しないのである。」とある如きである。これは資本主義の行詰れるを言ひ現はせるものであらう。

實に隨分と久しい以前から、マルクスの時代から資本主義の行詰りは宣言せられてゐるのである。

だがどうだらう、それ程までに資本主義の行詰りが叫ばれてゐるのに、如何して此迄行詰の結果として、資本主義の沒落と新しい社會の展開とが實現しないのであらうか。たゞロシアに於てその新しい社會展開の曙光を見たのみでその他の行詰りを叫ばれた國々に於てはさうでない。老へてみると變である。それでは資本主義の行詰つたと見たのは、それは間違ひなのでもあらうか。間違ひでないとしたら、何故行詰りのトドメは刺され、新しい社會の展開は來ないのであらうか。

しかし何が故に資本主義が行詰つたと見るであるか。その根據たるべきものは何であるか、如何なる社會の現象よりして斯くは云はれ得るのであるか。

それは社會の基礎たる經濟組織の資本主義的破綻、生産力と生産關係所有關係との矛盾撞着、それに因る社會生活の不安動搖混沌窮迫に依つてさう云ふのであらう。

しかし資本主義は生産力と生産關係所有關係との矛盾撞着に依つてその社會の基礎たるべき經濟組織の破綻を示し行詰つてはゐるにしても、尙よくそれが持續されるのは、まだ何處かにその發展と云ふ程でもないが發展すべき餘地が殘されてゐる故もあるであらうが、それよりも資本主義文化がよく行渡り民衆大衆を教化して變革意識を喚起せしめないからではないだらうか。文化は經濟といふ土臺の上に建てられた社會の上層建築に過ぎないが故に、土臺たるその經濟の行詰りと共にその力を失ふやうに思はれるけれど、事實はなか〳〵さうでない。それは尙よく民衆大衆の眼を眩まし導く力を持つてゐる。斯くて民衆大衆が資本主義教化より脫し窮迫の底よりその新しい社會の展開意識に目覺め、前意識を行動の上に現はさない以上は、例へ資本主義は經濟上行詰り社會を萎靡させながらも何處迄も尙續いて行くだらう。（と云つて、もとより變革意識そのものは經濟的行詰りより來るものである事は云ふ迄もない。）

日本に就いても現在主義の行詰りは宣せられてゐる。社會の生活は窮迫し低下しつゝある。がしかし、日本の民衆大衆がよく資本主義教化を脫し變革意識を抱かない限り現在の儘の如き狀態にある限り、資本主義は實際經濟上の行詰りを宣せられながらも、尙よく續いて行くだらう。資本主義以前から永い間被支配階級として通つて來た民衆大衆は、すつかり支配階級の文化の魔術にかゝつて完全に損ねられてゐる、自主的精神は失はれ、自分等の生活の開拓を支配階級の意に委せて治まつてゐる。社會主義運動、そんな事はこつちの知つた事でない、そんな事何の役に立つ、と云ふやうな、まるで自分等の生活とは何の關係もないもののやうな態度で生活し、搾られ搾られ窮乏の底に血の汗を流しながら蠢いてゐる有樣だ。かくて資本主義は行詰りながらもトドメを刺されず何處迄も社會主義の沃土を占領したまゝ我が物顏にのさばつてその存在を續けてゐる。

本誌三月號て、『地域的思想團體』が提唱せられたが、それはこの資本主義文化の魔術にかかつてゐる民衆大衆を解放し、行詰れる資本主義を倒壞して新しい社會を展開せしめる意識を喚起せしめるのに有力な必然な運動形態であると思ふ。今後我が國の行詰れる資本主義をしてその行詰を完了せしめるのに、行詰の最後のトドメを刺すのにこの「地域的思想團體」の活動に待つ事が非常に多い。

社會主義運動の「方向轉換」と云ふ言葉が二三年來用ひられて來たが、吾々はこの言葉を廢する。それはただ右傾を意味するばかりでなく、社會主義の反對を意味するものだ。吾々の運動は飽く迄も「方向轉換」ではない吾々は運動の戰線を擴大し充實し深化するのた。

資本主義は行詰つてゐる。だが未だ未だトドメは刺されない。トドメの刺される時は何時か？

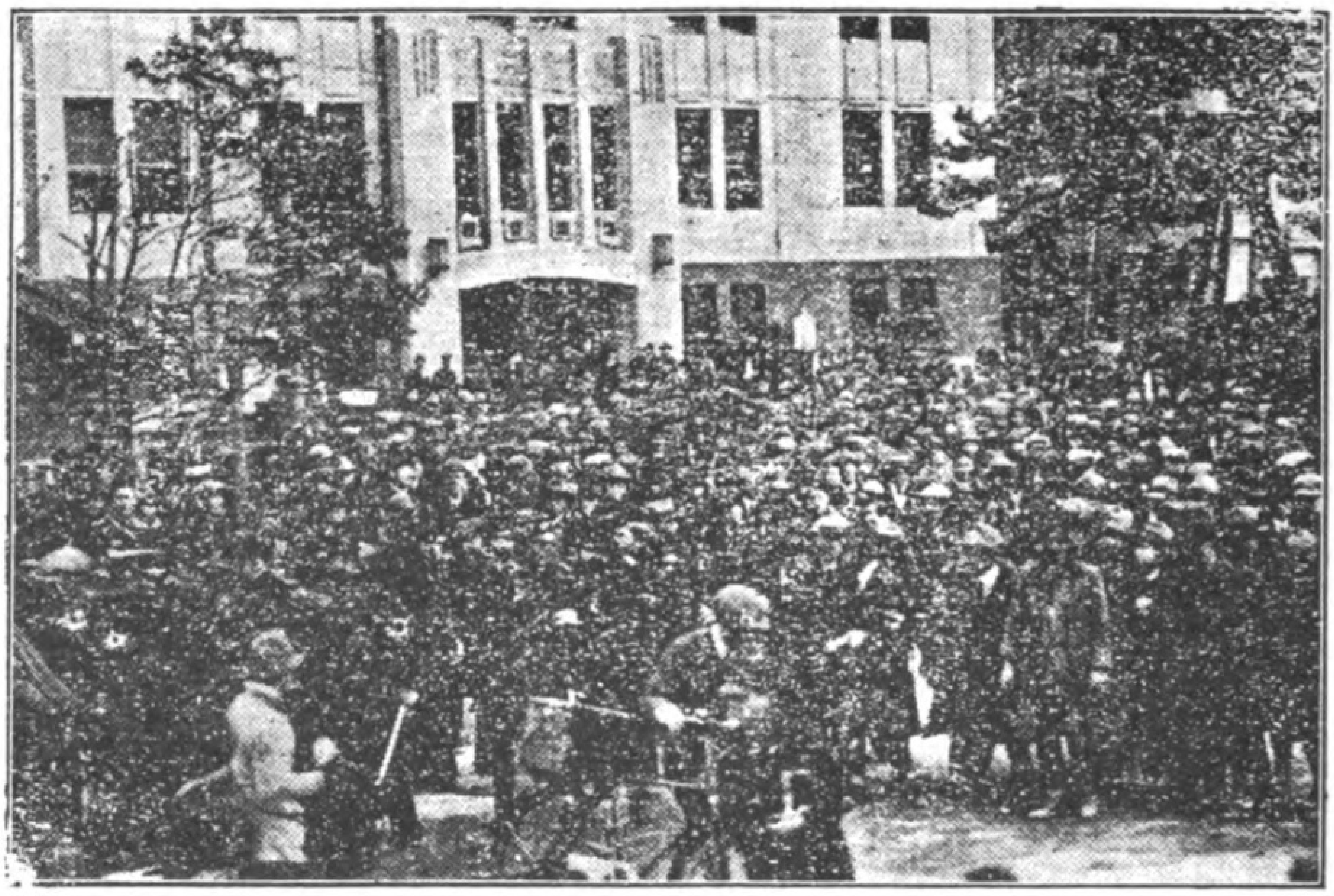
熊公の詩二つ

キリ〳〵熱してゐる
此の心臓
俺の一生を
今棒に振らうとしてゐるのだ

×

火に狂つた
火取り蟲のやうに
身を燒いても得るまでは
滿足出來ぬ心よ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



寫眞説明

「惡法反對 最後の示威運動」

「三月七日！」日本無産階級は此日を永遠に忘れてはならない。此日、惡法案は遂に、全日本民衆の輿論に背いて衆議院を通過した。有産者團にとつては、完全に無産者團に向つて宣戰を布告した日であり、吾々無産者にとつては、子々孫々、永劫に忘るべからざる屈辱の日である。寫眞は今、數千の都下勞働團體が、惡法反對の最後の叫びを、芝、協調會館に於て擧げ、日比谷を衝かんとしてゐる所である。然し乍ら、この示威運動も數千の騎馬憲兵及サーベルによつて、もろくも一蹴されてしまつた。かくして、劍に守られて專政の政治は布かれたのである。尚議會にあつては、この前古未曾有の法案に反對したものは、僅か、二百四十六名の贊成に對し十八名に過ぎなかつたのである。因に、十八名の反對代議名を左に記して、日本無産階級のため、後の世まで記念とする。

◆清瀬一郎氏、尾崎行雄氏、星島二郎氏、菊地謙二郎氏、湯淺凡平氏、武藤山治氏、畔田明氏、坂東孝太郎氏、山本愼平氏、佐藤潤象氏、今井準太郎氏、本田義成氏、田崎信藏氏、森田金藏氏、古林喜代太氏、猪野毛利榮氏、湛増庸一氏、前野芳造氏

（尚我が「進め」社に於ては上記十八氏に對して今後本誌を寄贈することにした。）

暴法に敗れて

渡邊理治

ブルヂュアーは今や搾取制度の完成に向つて更に一緻の努力とその辛辣ぶりとを發揮し、政府當局者も共にそれにくみして、これに無産民衆の幸福と、人間的名譽とを、サアベルと馬蹄とに蹂躙して治安維持法案なる美しき名のもとに無産民衆の政治的たいい頭を壓伏し、一切の無産階級運動を根絶して、吾人無産階級人をして永遠に賃銀奴隷の鐵鎖の下に屈從せしめんとするの暴法案を敢て自己階級以外の世論を無視して通過せしめた。

吾人はこの暴法案の議會に提出さるるや、民衆の思想的承認なき法案は政府當局者の民衆に對する政治的宣戰であるのみならず。暴力の挑戰であると抗議し、例へこの法案が治安を目的として、治安の攪亂を結果する者とあるもそは斷じて無産階級の責任ではあり得ぬと反抗し來つて、あらゆる合法的手段の限りを鳩首し、實行してこの暴法案の撤退を迫つた。にも拘はらず悲しい哉、軍隊と官憲の暴力を有せぬ吾人階級の正義は、言換れば吾人階級の合法的運動なるものは畢竟舌共に、デモンストレーションが只單にデモンストレーションを目的とする限りに於て、吾人を圍繞する敵の軍隊と官憲との鋭き銃劍を上越して地方にある同志との戰線の一致を完全に謀り得るものではなかつたのである。

考ふれば吾人階級の正義は到底ブルヂュアーの正義のそれとは兩立せざるものである。故に吾人階級の彼等に對する合法的手段なるものは、凡ゆる意味に於て、要するに非合法が最良なる戰術であることを思ふ。次に階級と階級との對立せる社會にありては、暴力はその階級の正者や自由を決定せしむる最大なる原動力であり、暴力を以外に正義は存在せないのである。

全日本の同志及勞働者諸君！

吾人は戰ひに於て惡戰苦鬪を續けしにもかゝはらず今茲に全く敗れて敵の暴法は既に吾人の頭上に下つたのである。

然して今や無産民衆はブルヂュアーに從へば奴隷か然らずんば牢獄生活かのいつれかである。と雖も吾人は斷じてかかる暴法を必要とするが如き社會の永續を願ふものではない。やがて近きに無産民衆の世界が來ることを確信してその日まで進む。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

潛行運動へ

潛行運動へ
―「治法」施行後の運動戰術の研究―

佐藤光敏

一

愈々、問題の「治安維持法案」は衆議院を通過し、昨日三月十七日該法案は貴族院治安維持法案委員會に於て、完全に可決された。衆議院に於て通過したものが、貴族院に於て否决若しくは握り潰しにされる筈がない。階級的利害より考へれば、金族も貴族もさして吾等無產階級より變りなきものと見て差支ない。彼等の財產及凡ゆる生產物が無產階級の搾取物である限り、而して、彼等が無產階級を膝下に於て、永遠の榮達を夢みんとする點より見て、一樣に支配的地位をかち得ようと願望する彼等の諸慾望の一致が等しく無產階級の敵對關係を形成せるものなるが故に、彼の特權階級及有產階級擁護の「治安維持法案」が、確の苦もなく易々として通過するのは何等不思議でも何でもないのである。衆議院に於て、一部、ブルジョアリベラリスト連が「治安法」絶對反對を唱へて少々、當局者連を手古摺らしたが、それも彼等が何等かの思惑若しくは野心等からやつたものが少くない。即ち、普選施行後の政界變遷に連れて、新しく勃興なる所の無產政黨に投じ樣とする野心からやつたものと考へ得られるからである。それはさて於て、最早此の法案は貴衆兩院を完全に通過したのである。吾等は此の法案が眞向から吾等の頭上に落下する時、其處に如何なる慘虐な悲劇が演ぜられるかは今から見て豫想に難くない。

二

吾等の今後の運動は如何なる進展を見て行くか。此の命題に對して諸君は如何なる意思を有してゐるであらうか。只漫然と、原野に夜の星を眺めてゐる樣では何時まで經つても吾等の望む理想社會はやつて來ない。現在見る所に據れは議會は「普選」「治安維持法」共通過した如くである。然らは吾等の運動方法も自ら此政治的事實に對して變改して行かなくてはなるまい「普選」は兎に角、吾等の生命を奪ふ所の此の「惡法」「治安維持法」が吾等に對して飽無き魔力を振ふ時、吾等はそれに對して如何なる方策を樹つべきや、吾等の今後の運動が、從來の如き單なる宣傳運動に止まるならば、幾百幾千幾萬の犧牲者を出さなくてはならぬ。これでは到底、吾等が豫期する功果は上り得る望みがない。問題は今後の宣傳方法及戰術の如何に掛る。

社會主義宣傳の方法が從來までは、文書宣傳（即ち、雜誌、パンフレツト、リーフレツトの如き、他にビラ等がある、が現在では皆無と見て差支ない）及演說會等に據つてやつてゐた。若しくは口頭宣傳と云つて個人的、團體的の座談會、何々會と云つて、個人より個人へ傳はつて行く方法と、五人十人なりが集まつてお互に話し合つて行く間に宣傳を行つて行く方法と、其の外諸々の宣傳方法を地方に據つて多少違つてゐたであらうが、大體左の如きものであつたけれども、多くは表面的に花々しい運動の如くみゆる、ビラ撒きとか官製の青年團等に於て革命歌を歌ふ位が關の山で、大衆を率いて行くと云ふよりは、大衆に對して敵對的な態度に據つて赤化しようとしてゐるが如き觀があつたのである。そうして表面的に功果ある如く見えて若しくは見られてゐたのが震災の時に於て初めて現實を暴露したのである。それは恰度、水面に油を流して燃えてゐたやつが、油が盡きたると元の如く歸る樣に、言換へれは、花火線香の樣なものであつた。吾等は斯樣な宣傳を以てするにはアマリに無意義無價値功果な寧ろ馬鹿々々しい感じに打たれざるを得ない。それは××運動を行つてゐるに非ずして最早××に醉つてゐるのである。新聞に自分の名が載つてゐるのを見て「俺はモウ完全な社會主義者だ。」なんて自惚れてゐる奴が少くなかつたのだ。然し乍ら、是からの運動は其麼事ではトテモ進まない。同じ事を繰返すはかりであるそれはかりではない。「十年」と云ふ別莊生活をさせなくてはならないのだ！

三

社會運動が順風に帆上げて走る船の如き、陽氣な行路を進むもの。

二つの首

虎之門小助

▽土工の首

▲三月七日、芝區櫻田本郷町の下水工事が崩壞して、無慘にも生き埋めとなつた三人の鮮人工夫がある。原因は市の工事設計が粗漏であつたためとあるが、然も、この無慘な死に對する慰勞として、責任者が次の如く語つてゐる。

▲「個人會社の仕事を請け負つて斯うした犧牲を出した場合には、二十圓から五十圓までの香奠を送ることになつてますが」云々と

▲土工は役人でも、半任官でもない、大低の場合、親方が個人會社の仕事を請け負つて、働らかせるのである。されは、土方の生命はイコール、二十圓乃至五十圓と相場が決つた譯だ。

▽人形の首

▲だが、流石は世の中だ。かうした、シミツタレた事はかりではない。人形の首一つが五十圓乃至千六百圓で、飛ぶ樣に賣れて行つた

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で無く不斷に險惡な荊棘の道を歩むものである事は今更云ふまでもない。而してそれが今や現實に吾等の眼前にやつて來たのだ。即ち「治安維持法」がそれだ。吾等は此の彈壓治下の社會運動を如何に速進して行くか。此の問題を吾等は須臾も忘れてはならない。現在までの運動は餘りに遊戲的であり眞劍味を缺いてゐた。社會主義者の纒目と云われる人が、何つも仲間喧嘩に日を足らぬと云つた風であつた。けれども其麼事はこれからの運動に取つては無用であり、第一暇がなからうと思ふ。吾等は斯樣な野心家共や、觀念的運動より離れて、「大衆の中」へ眞向に入つて行く時が來たのだ。それは大衆にオベツ化する事ではない。大衆の潛行運動へ！大衆の中へ！大衆の中へ！大衆と離れるな。大衆の向わんとする方向を究めよ。大衆より眼を離す勿れ。大衆と共に在らしめよ。

地方の青年諸君達は地方の青年會（郡青年會村青年會）に潜入する事だ。外から火を點ずる事より内から點ずる事の方が、根強くて速力が速いのである。花火線香的運動より噴火山的でなくてはならぬ。

本誌前月號の石川準十郎君の「地域的思想團體へ」と云ふ記事が掲げてあつたが、是に對して現在纒つた意見を持つてゐないが、後日此の問題に對して假借なき檢討を加へて見たいと思ふが、今は、紙數に限りがあるからこれだけに止めて置く。

「治安維持法」は近く施行せられんとす。此の時に當り、猛然、緊褌一番、新なる戰術を以て宣戰布告と共に戰闘を開始されん事を望んで止まない。（終）

問題二つ

石川生

「暴力」に就て

私は本誌前號に於て未知の同志小林純氏より「××につき、石川氏に」なる批評を頂いた。私は此處に私一個人としてのこの點に就ての考を述べさして貰ふことにする。

無産階級の政權奪取（所謂政治革命）の達成方法には大體「暴力」に依る方法と「議會」に依る方法とあるのであるが、私はこのいづれも、同じ「力」の相異する兩面の現れだと思ふのである。一般的事情の下に於てはその「力」は常に兩者に同じ位の程度を以て移動し得る樣に成長して行き得るものだと思ふ。或る人には「議會」に向ふ力と「暴力」に向ふ力とは全然別性のものである樣に考へ、「議會」の路から「暴力」の路へ出るのは、全く後戻りして又最初の出發點まで廻り道でもするもの〻如く考へて居る樣であるが、私はさうは思はない。

所で私は、希望原則としては「暴力」を否定する。私は「暴力」と云ふものは單なる「物理力」とは異つて、どこまでも「反社會的性質」のものだと思ふ。それは常に「反社會的作用」を伴ふ。が私は又この「暴力」が他の或る止むを得ない社會的理由に依つてその「反社會的性質」を消される場合があり得ることを認める。私が「暴力」を肯定するとしたら、若しくはして居るとしたら、それは「暴力」に對する「暴力」の時である。私は最もこの世の「暴力」を憎む。私は「暴力」に對してはどんなことをして報いても宜いものだと思ふ。

私は大體以上の樣に考へる。隨つて私には、必ず「議會」で行かなければならないとする派の社會主義も腑に落ちないが、初めから天降り的に「暴力」で行かなければならないとする派の社會主義も嫌ひである。私は「暴力」は否定して覺悟して行きたい。結果は特定された事情の下に於ては或ひは同じでも、その心持は違ふ。且この立場から行けば「方向轉換」などと云ふことは無い。

小林氏もこの點は十分諒解して居られる。只私との相違點は、先の廻り道と見るか否かの點こあるではないかと思ふ。

「地域的思想團體」に就て

私は前號に於て「地域的思想團體」主義を提唱した。然し、私は産業的組合主義が不必要だと云ふのではない。私は産業別的組合が無産階級の政權奪取の後に差し當り演ずるであらう重大な役目を認める。然し私は日本に於ける「政權奪取」運動の運動動素としては職業的に無差別に只同一の無産階級であると云ふ所以を以て地理的に結合する「地域的思想團體」の方が、重要であり且今後發達し得る可能性が多いと思ふのである。

團體の名稱は、其土地の事情に依つて、「會」「青年團」「組合」「倶樂部」「社」「協會」何んでも宜からう。現に勞働組合の中には今日私の意味する「地域的思想團體」と全く同じものが少なからざる由を聞く。全國の「在郷軍人團」「官製青年團」等はこの立場よりして今後着目すべき最大の既存團體であらう。（完）

と云ふ、然もその賣上げ高は一軒のひな店で三十五萬圓も突飛したさうだ。又何んとか云ふ、富豪は可愛い、孫のために、二萬圓の雛御殿を作つて與れたと云ふ話しもある。

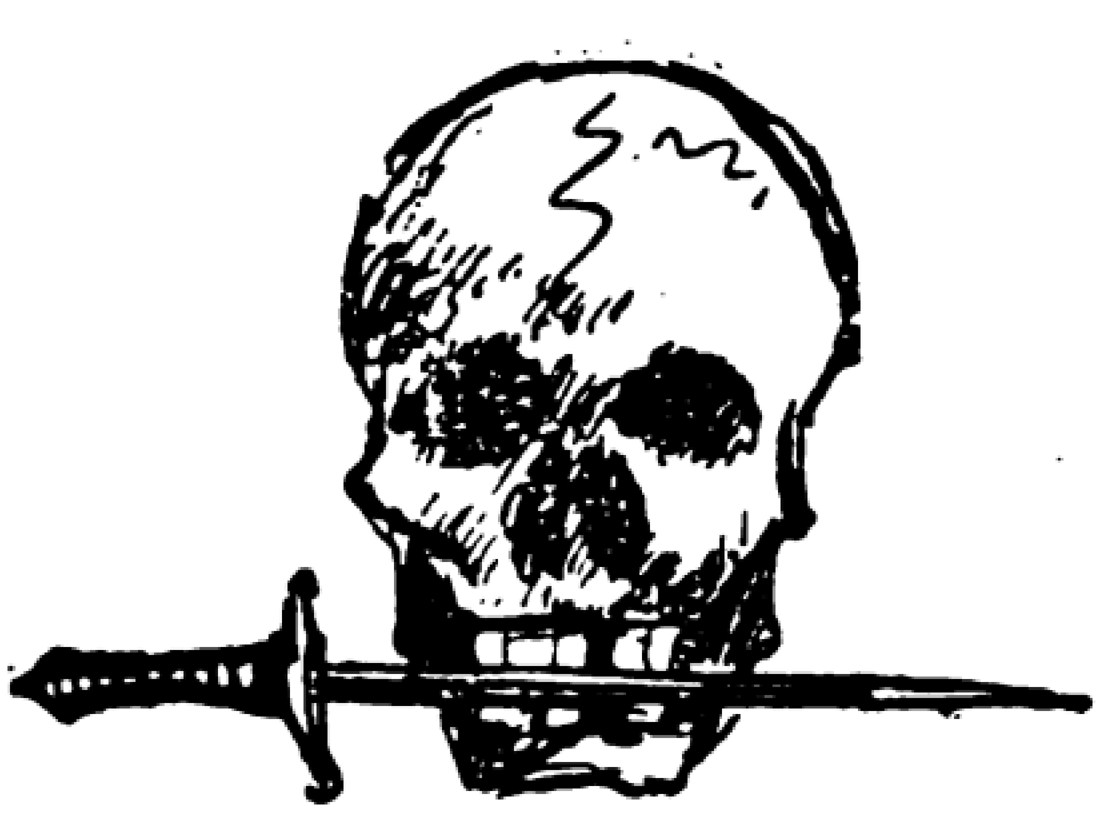
▲土方の血の出る首が五十圓で、壁土をこねくつた豆つぶ程の人形の首が、それの何十倍も價がする世の中だそれのみか、土方の首が工事場で、炭坑で年、何萬と生き埋づめにならうと、問題にならずかへつて、一貴族院議員が、醉ひどれて、下水工事の穴にヒツクリ返つた方が議會の問題になる、名譽ある、文明の世だ。

▲アメリカ一ケ國の、一年間の、かうした、勞働者群の死傷が五萬人を下らないさうだ。更に、かつてのロシア革命の槍玉にあげられたブルヤ貴族の首の數に比較すれば、後者はその數分の一にしか當らないと云ふ。

▲それは兎も角、この櫻田本郷に於ける、三名の鮮人土工の犧牲の最後の場面に、涙なしに聞き得ない、劇的悲壯さがある。

▲「アニハカゼヒイテ七七ヒシンダ」これは共に働いてゐて幸ひ死をまぬかれた、犧牲者の弟から、故郷への知らせの電報である（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



全土戰報

全國の同志諸君へ

全國の同志諸君！純眞なる熱情と眞摯なる人民とを以て、敵資本家の牙城に肉迫しつゝある諸君の姿を見る時、而して其の血みどろの闘ひの跡を想起する時、吾等は諸君に涙ぐましい感激と、衷心からの謝意を表するものである。然し勿ら、吾々は徒らに迫害に次ぐに迫害、血潮に彩るに涙を以てした過去の戰跡にのみ感慨を滋うしてゐるの時ではない。今や悪法が布かれ、暴に倍し、其の犠牲が敵の祭壇の血祭に舉げられようとしてゐる。闘ひは、刻一刻悲壯深刻となりつゝある。吾々に最後の決戰が近いた。吾等は地上に正義の存在する限り、吾等の生命の續く限り戰はねばならぬ。全日本の無產階級諸君！進めは諸君が戰ひの記錄である。諸君の戰報を待つ。（全土戰報係）

朝鮮・元山

元山爭議の解決

昨年七月廿六日以來紛擾に紛擾を重ねて來た、朝鮮元山の勞働爭議は本年二月十五日を以て、其の圓滿なる解決を見るに至つたのである。

所が、其の爭議の發端より圓滿なる解決を得らるゝ迄の惡戰苦闘の戰蹟は左の如くである。

元山勞働會にては本年一月廿日の評議會定例評議員會（三十餘團體）に於て、左記の條件を決議し、翌日の一月廿一日に、彼の資本階級自發團體たる元山客主組合に突きつけた。

記

一、明太魚荷造賃、普通荷造賃は在來六錢を八錢に、特別荷造賃は在來八錢を十錢に値上げる事

二、明太魚下陸賃、北鮮倉庫及棧橋揚賃は在來八錢を十錢に値上げる事

三、前記二項の要求に對し、若しも不應の場合は明太魚下陸及荷造に限り罷業を宣する。が、其の猶豫期間は約十三日間（爲二月二日除一月十日迄）とす。

四、前項の猶豫期間經過後即ち二月二日より、罷業に因り生ずる損害に對する責任は、本會にては其の責を負はず

右要求に對し、元山客主組合では臨時總會を開いて討議したる結果「客冬以來咸鏡線一部開通の爲め「明太」の大部分は當港を經ず直接各地に輸送しつゝあるは事實が證明する、然るに此際に於て、明太魚賃金を値上くれば、より以上當港を經由せざる虞れがある。故に貴要に應する事が出來ないから從前の通りに施行して下れ」との回答が來た。

右回答に對し、元山勞働會では再び「遺憾乍ら本會は到底從前の通り施行し難いので、不得已客月廿一日照會第三項を以て、豫宣したる罷業を斷行する」と云ふ最後の强硬な抗答を送つた。

是於乎、兩方共作戰計畫に殺忙しつゝ緊張なる空氣の波紋は刻一刻縱横に織出し、各新聞記者は云ふ迄も無く、警官の「サーベル」は交々交つて、光りを放ち乍ら萬一を警戒して居つた。

斯くの如く、兩方の形勢益々險惡化しつゝあるを見たる、元山青年會は、本件は元山に於ける重大問題である、成り行きに任して傍觀無關心的態度を取るのは、本會として不忍の事であるとの理由で仲裁の役に乘り立ち、去る二月二日兩者の幹部を、青年會に招集して兩方に妥協を勸めた結果兩方相互說伴說來約五時間後漸く罷業猶豫期間を約四週間に延長する事に下相談が纒まつた。

元山勞働會は其の日の夜九時頃臨時委員會を開いて、右猶豫期間延長に對する討議を致し所、遂に三週間猶豫期間を與ふる事に決定して、客主組合に宛てて通知書を送つた。

右猶豫期間延長の通知書を接した元山客主組合は。去る二月六日午後四時緊急總會を開いて討論したる結果、元山勞働會對交涉全權委員として安建協、金錫五。張甲齡、李道淳、張允鉉等五名を選定した。

去る二月八日午後一時に元山客

農村の友に

直平

三年前の秋！—君もキツト何時までも忘れずに思出すだらう、あの年の不作がたうとう僕を君からまた村から引き離してしまつた、あの時には實際僕も堪えられなかつたそのはづさ、一年中夜仕事までして骨と皮に痩せるまで働き續けてさてやつとこさ出來上つた米の中から年貢米と肥料代の前借を返したらいくら殘つたと言ふのだ。まつたくお正月も出來そうにもなかつたからなあ、仕方がないから妹を可愛いそうだとは思つたが尋常五年の子供を紡績へ出したがそれでもおつつきそうにもなかつたからね。僕たちだつてぢつとしては居れないさ、それで君と一緒に○○水力電氣の工事へ土方に出掛けた譯だつたね。あの霙まじりの雨の降る日荷物を擔いで出掛けた様を思出してくれい。案外あんな事には慣れた僕たちとは言へ、あゝした氣持は實際いゝものではない僕は今でもあの時のおふくろの顏と君の妹の顏が目に見える様だぜ暗いたとへ様のないかなしい顏色ではなかつたか。思へば二人共あれが別れになつてしまつたのだからなあ。

それから○○水力電氣に行つて仕事がないと斷はられた時、君は家の長男だし他にいゝ仕事場もなさそうだし粟をかじつても一先づ歸るといつて歸つてしまつたが、僕は考へたよ。いくら考へても計算して見ても僕は再び歸る氣がしなかつたのだ、「自分が作つた米が目の前にありながらそれが食へないなんて不思議なことだ」と君が言つた通り、實際切角年が年中寢る間もない程稼ぎに稼いでも半分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主組合の交渉全權委員は元山勞働會の幹部たる韓、李永檣、金大郁等三氏を訪問妥協した結果、問題は却て意外に擴大し。遂に左の條件を發して來る十五日(二月)午後零時元山客主組合に集まり最後的協定を成す事にした。

記

一、共同組及荷造六ケ組の賃金改定の件

二、約定書改定の件

去る二月十五日午後一時頃より兩方の幹部は豫定の場所に會合して、先づ賃金の改定を協議した結果左記の如く協定した。且つ約定書改定の件は遂に廢棄せられた。

記

一、明太魚下陸賃は北鮮倉庫迄、在來十錢を十錢に、殖置場三ケ所は在來十八錢を二十錢に、殖産二ケ所は在來十四錢を十五錢に改定した。

二、明太魚荷造賃は、普通賃金在來六錢を七錢に、特別賃金在來八錢を九錢にと改定した。

三、共同組運搬賃は、明太魚の運搬に限り一個に付き金一錢づつ値上げるに決定した。

(谷東生)、

香川縣

伏木の小作裁判問題と成る

香川縣伏木町に於ける小作爭

事件に關しては、本誌前號に於て既報した通りであるが、尚本事件は人道上の問題として世間の耳目を聳動せしむることゝなつた。その眞相經過は次の如くである。吾々小作人のため、横暴極まりなき地主に對抗し戰つた、若林辯護士は爭議に連坐し收監された。ために去る十日夜、日本辯護士協會では宮崎氏外三名の辯護士をして調査せしめた結果驚くべし、高松裁判所の所調べは峻烈を極めかの京都に於ける、豚箱事件の如く、殆どが○う問に等しき態度を取つたことが發表された。それによると裁判所は、毎日の如く午前十時から夜の十二に至る迄自白を強要し同一の言葉を繰返しく詰問し、果てはそのために、眞屋市會議員の如きは發狂するの結果に陷つたのである。かくの如くして、彼等地主は、最後の武器○○權によつて、吾等を虐げ、吾等の陣營を、木葉微塵に打ち碎かんとしてゐる全國の小作人諸君よ、吾等は常に之に對する覺悟がなければならない。

(伏石、小林生)

山形縣

農村に聞ゆ革命の歌

吹雪の中から革命の歌が響く。

治安維持法が素張らしい勢ひでプロレタリヤの凡ゆる苦悶のうめきを抑へつけようとしても、金ピカのサーベルが百姓の首に擬せられても、生きられない原因の續く限りは、吹雪の中に革命の歌が響かねばならない。

惡法實施のその時には中央の同志は續々と赤煉瓦にひきづられて行くだらう。しかし、その時だつて革命の歌は赤煉瓦の内からのみ響くのではない。泥まみれの百姓も鋤を捨てゝその歌に和す。

赤煉瓦の收容力の續く限り我々は我々の同志をそこに送るべきである。決して後繼者のないのを憂へてはならない。必要に應じて吹雪の中から、たくましい筋骨の男がいくらでも飛び出して行く。

地方にあつて腕の鳴る者は案外少くはない。我々が中央の同志に望むのは、思ひ切つて赤煉瓦にと飛び込んで行つて貰ひたいことだ。

決して後顧の憂ひはない。月山颪の眞中からも革命の歌は、革命の萌芽は芽生えてゐる。治案維持法退治の最良案は此正面攻撃以外にないと思ふが如何。

ついでに山形に於ける運動は、低く低くしかも根強く土を這つてゐる。生きられない原因のあるところが必ず我々の誠意が認められて行くと云ふことは、社會運動のもつ最も快い現實だ。

(山形支局エス生)

岡山縣

全國の同志諸君へ

僕の希望を一言せん、僕は元より言ふ迄もなく無産階級勞働者であるから勿論一文金も所持するの惡心はない、從つて各地支局及び同志諸兄との往復も現在の僕の境遇としては、總てに於て餘裕がないから不可能である、吾等は時々同志と會見する事は最も良策とは思つて居るが、遠隔の同志と會見する事は、甚だ困難である、故に各地に於ける支局に勿論同志諸兄は本誌の「全士戰報」欄を大いに利用して其地方の戰線報導や消息を例令五行づゝでも戰報欄へ投じて、そして誌上にて各地同志と本欄にて會見したいと僕は希望して居る、本誌に於ても此の意味に於て全士戰報欄の發展策に努力せられん事を切に望む。

無産職工の勝利

岡山縣旭東二郡に於ける瓦職工等は本誌前號で報道した如く全く最近に至り目覺てか無産職工等は團結し工場主等に向つて賃金値上げ問題を提出せんと運動中の處二月二十二日西大寺町に於て二郡に於ける瓦製造同業組合春季總會が開催せられたるを好機とし職工側が

以上の年貢米を引き去られ、肥料代を差し引いて稅金まで數へたら殘りはいくらもないんだからなあ。それを思ふと僕はもう歸る氣がしなくなつてもつと樂に生活の出來る處があるだらうとたうたう東京へ出て來てしまつたのだ。處が東京へ出て來てから彼是三年にもなるが僕はまだ息の休める樣な生活が一ぺんも出來ないんだ。一つ所に居れないだけでも更に割合が惡いあげくの果今では立ちん坊までしなければ飯が喰へないといふ身の上だ、世の中は廣いけれども僕なんかの樣に生れつきの貧乏人は何處へ行つたつて日は照らないんだしかし僕は其の間に少し本を讀んだり人の話を聞いたりした結果で此の不思議な不幸だらけの世の中の正體が解つた。

○○君喜んでくれい、長い間夢の樣にたづね廻つてゐた幸福の鍵を見つけたのだ。しかしそれは幸福そのものではなくて幸福の鍵であつたのだ。幸福の鍵?それさえ動して扉を開けば幸福は自然に來るのだ。僕たちは長い間それを知らなかつた。僕たちは幸福の鍵を握る事はそう大した事ではない、一寸と目を開いてくれゝばいゝのだ。不思議に苦しい不幸だらけの社會の正體がすぐ解る。

それは資本主義制度といふ大きい一つの泥棒制度が現在の社會の全部を巧妙に支配してゐるといふことだ僕たちが今までそれとも知らずに白晝公然と泥棒されてゐたと言ふ事だ。たとへば僕たちの地主さんがあゝして毎日ぶらぶらしてゐながら四千石といふどえらい米を只で手に入れてゐるではないか米なんて只で出來るんでないのだ僕たち百姓が毎日一生懸命に働いてこしらへるのだそれを地主が何にもせずに取つてゐるのだ。泥棒してゐるのだそしてそれが代議士

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にても同町に集合し同業組合に向つて賃金値上を提出し頗る强硬の態度にて若し値上をせざる時は同盟怠業をせんと意氣込み氣勢を擧げたる爲め同業組合卽ち工場主等側にても其の形勢に恐れてか對抗的態度に出でず直に諒解を得て平穩に工賃値上を聞き入れ三月一日より愈々實行する事と決し是れにて無產職工の勝利に歸したのである。

因に職工組合も未だ正式に成立せず來る五月メーデー當日迄には發會式を擧げる豫定である。（倉木晃南）

朝鮮・京城

朝鮮無產階級運動の近況

現下朝鮮に於ける大無產團體を擧ぐれば朝鮮勞農總同盟と朝鮮靑年同盟の二つである。此の二團體は從來の朝鮮運動界の趨勢が朝鮮の○○に就いて流れて居たものが漸く階級的色彩を帶び來りたると又一方言論戰より生產界のそれに轉下したるとの必然の象徵として產まれ出でたるもので而もその急速なる發達は甚だしく警務局方面の頭痛の種となり爲めに嚴重なる取締りを蒙り對外的活動不可能となり內部的充實に努めつゝあるが此處に原因して最近多少の波瀾を來して居る。一派の思想團體火曜會は斡旋役となり全朝鮮の民衆運動者大會なるものを計畫した。是に對して上記兩總同盟の後援者ソール靑年會初め主なる運動團體は民衆運動者大會は內容に就て種々名目を附して居るが、實質は兩總同盟の內容分子と同一なるものゝ會合を計畫するもので、こは兩總同盟を攪亂するものである

との理由で大會で火曜會の計畫を否認し火曜會を攻擊して居る。果して如何なる結果を產むや尙不明なるも戰線の攪亂は餘りよい結果を生むものとは思はれぬ。

朝鮮の罷業破り

朝鮮に於ける最近（二月中と尙繼續中）の二ストライキに於ける事實京城電氣會社電車部の罷業從業員の殆んど全部三百餘名は待遇改善（詳細は略）を叫び一齊罷業に出でたが警察の集合禁止と舊從業員の狩集めに依つて一兩日にして脆くも潰れて了つた……予輩は此の殆んど無條件の罷業破りに果然とした。其二平壤府に於ける印刷工の罷業も前例の如く潰れた。正に勞資戰上に於て罷業破り程恐るべきものはあるまい。而も夫れが全くのタワリシツチイであるべき者が決行するに於ては團結は急を告げて居る。

（在京城、長沼明）

北信

全國的聯盟へ

今や全國的無產靑年同盟の聲は全國の同志の口から洩れる重大なる叫びだ、此の叫びに對して俺は一言云ふて見る。

全國的聯盟・確に重大なる、そして當面の問題だ、けれ共、我々はよく考へなければならぬ。いかに聲のみ大きく共大衆を動かし得ぬ叫びは零だ、我々の運動、もし究極の目的は他の運動と等しく、社會○○にある以上、大衆を對照とする筈だ、我々は今社會運動の先驅を氣取る前衞と自稱する人々の意外に多きを見るものだ、そしてその人達の大衆と離れて殆ど敵となつて居る事實を見出す、そして純然たるマルキ、シズムの信奉者也とし、徒らに大聲を上げて居るのを見る。時・我々は自己の本分を忘れたる木偶と見るもので、都市農村の靑年は今全國的聯盟の重大なる任務をそれより先に片付ける運動を殘して居ないか、曰く官僚軍閥に家を操らる、既成靑年團の乘取りだ。我々は此の、官製靑年團に喰ひ込んで、我々のものとしなくてはならない。我々のものとして全國の同志を糾合すべきだ、それなくして、我々は聯盟は成立し得ぬと信ずる、先づ第一に全國に散在する同志は既成靑年團に喰ひ込む可きだ、高く、自由・自主の旗幟の揭げて、官僚の城に肉迫せよ！

然し乍ら我々はかく云ふ事によつて既成の團體を度外視するものではない、全國にある既成團體は、早速聯盟組織に着手すべきである。此の既成團體の運動によつて聯盟組織は促進されるであらう未だ思想的に目覺めざる我國の大部を見た時に、我々は當面の任務として當分の間主力を自衞的靑年會の確立に注がねばならぬ、と我々は提唱するものである、然し未だ此の聯盟の成立迄には、多くの時日を經なくてはならないであらう、けれ共餘りに急ぐ事によつて不完全のものを作ってはならない、運動は思想運動を本派とする以上可成り大衆しよう共墮落するものではない、かくして自主的靑年會の確立運動と共に政治研究會の支部を作つて、プロレタリヤ政黨出現に、努力するとも、聯盟促進の一つの運動である。我々の運動は、勿論獨立したものである、けれ共プロレタリヤ政黨の援助によつて多大の効果を收め得るは、歷然たるものである、或は反對者派は政研支部作成について、右傾ダラクと嘲笑あるだらう、然し乍ら如何に理論整然として述べ得るも、大衆の支持なくして、我々の運動は緖を切られ、風船玉の如くであら

にもなり法律もきめてゐるのだ。無論その法律は何處々々までもその大變な制度を保護してゐるのだ其の爲に澤山の僕等がいくら稼いでも苦しくなるばかりで貧乏するばかりで幸福なんて來そうなはづもないと言ふ事になるのだ。是が社會の正體なんだ。そこで資本家はその正體をかくすために自分で勝手にこしらへた道德や宗敎をだしに使つて服從せよの正直にせよの此の世で苦しめば後の世は極樂だの勝手な事を言つてゐるのだ。しかし服從すれば奴隷になり正直にすれば貧乏をし此の世で苦しくて金がなくお經一卷も讀んで貰はなければ未來は地獄行きに極つてゐる位は解るさ、それでも手强ければ法律で軍隊で警察でおどしつける。大體資本主義つて奴はこんな具合なんだ、僕はもう解つたそこで鍵でもつて此の資本主義といふ扉を開ければそれで明るい幸福の社會が來る譯なんだ。泥捧なんかの一匹もゐない社會がね。鍵とは卽ち資本主義を倒す道具、それは民衆大多數の團結の力にあるのだ。僕たち百姓や勞働者や其の他無產階級の全部が要求して止まぬ時、如何なる制度も足を斥ける事はできまい、其のために僕等は多くの團體や組合を造つて陣容を固め戰術を練らねばならない、そして其の固い團結の力で戰ひ闇の資本主義を倒して明るい全人類の一樣に喜べる社會を造るのだ。

僕は今こんな事を知つた。長い間苦しみ幸福を求めて止まなかつたものが玆に於いて報いられるのだ君の妹が大阪の紡績で肺病にとつゝかれて死んでしまひ僕の妹も今同じい病にとつつかれてゐるそうだが、僕はそれをきくだにまたたちつとしてはゐられなくなつた、僕は直ぐ歸るそして君たちと一緒に手を握つて無產階級運動に全力をあげるつもりだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う、要するに、我々の當面の任務は官僚の根城を乘取る事であるのだ。そして其の新しき團體を作り上げて、新興階級の使命を知らしめ、以て、ブルジョアジーに突撃するにある。（黒木生）

新潟縣

郷土に響く黎明の鐘

時代錯語の新發田へ「進め」の支局を設けた、一月二十二日、この短期間に於て幾多の壓迫、横暴、迫害、干渉、恐喝、彼等の專横を、併し虐げられても堅實なる我々同志の意志と勇氣は、自由平等人類愛の旗印を立て、猛進しつゝある。併るに町の輕薄な低能者は、我々の主想思潮を町の名譽とか、危險とかで騷ぎ廻る低能者共が多い、從來新發田出身で故大杉榮田口運藏、松下芳男相馬軔凡氏等、幾多の先覺は寢食を忘れ無產階級解放運動に獻身的努力を續けられるのに、その町に斯の如き青年否小供等有り、低能者共の如き故横暴極まる彼等に干渉や恐喝されて自己の思想及主義を當世流行の品物の如く今日は、アナ明日はギル明後日は尤も、男性に女性の如き意志薄弱、決斷心の無い青年にあらずして子供の薄馬鹿の事故、彼等の云ふがままんなる。

低能者共が我々を高い遊興税を御支拂下され、我々を御招待し、飲みたくても飲め無い、食たくも食られ無い物を御馳走に成り、我々を御忠告否我々を善道をお導きす、併しながら貴下等に對して申譯が無い、我々の確實なる意志と熱血と勇氣は貴下等で後とも無く消える樣な意志薄弱な薄馬鹿共と共に從ふ事は出來ない。

新發田の青年よ、全國に於て無產階級解放運動の曉鐘は亂打されたり新發田は我々の幾多の先覺は血と涙で戰つゝある、青年よ君等は自己の血、肉、骨、迄搾取されつゝあるのを知らざるか君等の明日の運命を決定するならば、社會改造の叫聲で無くてはならない青年よ、壓迫危險は我々の身邊にせまる、併れ共、我々は自由平等人類愛の旗印を立つて反抗せよ。（新潟縣支局佐久間一夫）

岐阜縣

研究會の設置

岐阜山間の一部落にある進め支局同人も着々と、青年運動に從事し其の運動方針策もほつぼつと具體化しつゝある現象であり。兼ねて當進め支局思想研究部に於て計畫の協議であつた、座談的巡回研究會を實現し第一回青年社會思想研究會を同志懸掛君の宅に於いて、三月〇〇日の夜開催したのであつた。其の研究概題は、社會主義及資本主義的議會政治及プロレタリア經濟學等に關して盛んに研究され、多數の出席者の仲に一人天理敎を信ずる、多神論者が加はつて居り、其の神を崇拜する有神論者と神を否定する無神論者等の討議論戰が開始され第一回の研究會にしては多數の出席者があり、盛大に開かれたのであつた今後會を重ね度に益々盛大に會が大きくなつて行く事と俺等深く確心するものである。（下麻生　水野生）

「進め」は無產大衆のもの

俺は、紡績職工だ。昨年九月九州の、某社が閉塲したので、此地へ來たのだ。昨年から、ずつと、進めをよんで居り、何か、書ニラ〳〵と、思ひ乍ら、つい今迄書かずにゐた。進めは大衆の物だ。各地諸君の投稿を待つといふので、一つ、不文をかまわずかいてみよう。

濟まないが編輯に對して一言、振ひたい、

振カナ發止の事は、何も云はないが、新語には我々には分らん言葉が澤山ある、たとへは、プロレタリヤ（無產階級）といふように編輯してあつたら、我々同樣、に、無學の者は、どんなに分りやすいか。

カナ發止と新語ノ直譯の書入が願

俺か紡績職工だから紡績の事をかくのだ。そして斷片的に、

有產者の娘　無產者の娘

弱い俺は、今日も醫局に行く。醫師不在、腰かけに、工塲服の女工が一人苦しげにかけてゐた。暫らくして、醫師來る、看護婦が、その女工をよび、醫師へ

「この二人はすんだのですが中退
……中途の事……にして下さいとです」

といふ。醫師は體温計をさして腰かけへ戻す。十分經つた。女工から體温計を取つた看護婦は

「三十八度八分」

といふ、醫師は中退の證明を渡す

俺は

「平温三十七度として、一度八分の昇りだ、その病人に、二度診察を受くるまで體温さへ計つやらぬ醫師の不親切これがプルの奴だつたら、氷だ、看護婦たとさわぐのに、プロは九度近い熱で今まで工塲に働き、室にかへれば、冷たき世話係の眼、冷たき床、同室の女工らの騷が……

……同じ人間が有產者の子女！

……無產者の子女」

と、反抗の心が燃へた。（關ケ原　松村生）

危險思想　撲滅の第一線

北京　王子言

現在の社會制度を否認する叫びは成る程、資本家階級には危險な思想に違ひないと同樣、大しプロレタリアの幸福平和を志すものの爲めには現制度を唯一の信條とする資本家階級の態度は頗る危險な思想である。

然し國家を權力の代表として自己の手に收めて居る前者は、隨時必要に應じて便利な制度を設け對手を縮る……例へは治安維持法の如き……

之れに對し後者はなんで前者の危險思想を取締り撲滅するか

要するに後者の據るべきものは「數の力」よりほかには無い。

無產青年今後の使命は此の「數」に光と力を與へるに在る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

プロレツト カルトとは何か

梅津四郎

前號にはプロレツト、カルト（無産階級敎化）といふ大意とカルトを實現する時代的區別を、述べたのである。第一期第二期第三期の時代的區別に於て、第一期は資本主義制度と闘つて自家の礎を築く爲の敎化、第二期はプロレタリアの執政時代に移つてからの敎化、第三期は人類の眞の歴史が展開するに至つてからの敎化である。

現在まで明治大正の五十八年間の資本主義制度に於けるブルジョアカルトは、如何に我々民衆の腦裡深く有産階級敎化を打こんだかが現在の資本主義制度の如何に根强く打建てられ、而してブルジョアジーを擁護し包圍して居る彼等の城壁を見ることによりて明かなのである。

現在まで我々は學校に於ても家庭に於ても修身に國語に歴史に講演に凡ゆる方面に凡ゆる機會に於て資本主義制度の裏面（臭い所）に觸れしめない樣に外面的方面（美し善）のみに接觸せしめる樣に、誘はれつゝあつたのである。然し乍ら資本主義制度の必然の結果として、其の不合理なる、其の矛盾したる奧底を、到底打かくすことが出來得なくなるのである。而して資本主義制度が、膨脹し盡した時必然的宿命として、崩壞す可きであるが、崩壞する以前に於て凋落の時機に於て漠然乍らも人々は其の制度の不合理を意識するものである。人々は其の不合理を必然に意識するといへ、若し此處に外部よりの運動者によつて意識付けられたならば、より早く理解し同じ同志として叫合し得るものである

それによつて見ても我々は、プロレツト、カルトの如何に必要なるかを痛感するのである。しかしプロレツトを實現せんとするには時代的區別が必要である。前號にも述べた如く若し第一期時代に、第二期に施すべきカルトを行ひ、第三期時代になりても第一期時代のカルトを續けるならば、其處に大なる危險が伴ふのである。この第一期資本主義制度と闘つてプロレタリアートが自家の礎を築かんとする時に於ては、先づ第一に民衆に向つて此の資本主義制度の不合理を判然と意識させることである。其の手段方法としては餘り現實よりかけ離れない問題を捕へ、大部分の民衆が猜疑の眼を瞠張る事物をとらへて其れを解剖し批判し立證することである。講演も宜からう。著書（詩、小說等は特に効果あり）時々の流行唄ポスター等あらゆる方面に凡ゆる時機に其れに適合したことを行ふのである然しあまりに進み過ぎたカルトは却て未だ判然と理解のない民衆の心理と相入れないことがあり、それが爲め却つて反感を抱かしめる恐れがあるによつて、この邊は大なる注意を要するのである。例へば此處に第一期時代に用ふる文藝の例を示せば琢木の

コ、アの一匙

我は知る、テロリスト
かなしき心を――
言葉と行ひとを分ちがたき只
一つの心を
奪はれたる言葉のかわりに
行ひをもて語らんとする心を
我と我が體を敵になげつくる

新しき力は 新しき人より

虎之門小助

私はスチルネリアンとしての彼を知つてゐる。でも彼は元からのスチルネリアンではなかつた。彼は燃ゆるが如き情熱と信念とを以て、アナーキズムの爲めに闘つて來た、勇敢な闘士の一人であつたが、然し、彼は今、スチルネリアンとして、獨自の路を寂しげに微笑しながら歩んでゐる。私は今玆で彼の内面的生活の變動を臆測しやうとはしない。只、彼のかつてアナーキストとしての生活から、現在のスチルネリアンとしての生活への經路は、いさゝか、過去から現在に亙る日本社會運動の趨向を物語るものでもあり、又、未來の人々への訓へにもなることであらうと思はれる。

――彼がアナーキストとして、そのグループに投じたのは、二十歳の頃であつた。そして彼の信念に對する、苦闘も又普通人の追從を許さぬ所であつた。彼の苦闘の跡それは前科六犯の肩書きによつてもうなづかれるものである。或時は、彼は寒風の夜空にさらされながら、公園のベンチに、或は軒下に、「萬人の自由と幸福」とのために夢み、かつ祈ることをせめての心やりに、寒さに震へながら、うづくまつてゐた。それも一度ならず度々の事であつた、然し勿ら彼はついぞ、身から離さずに晝は生活の糧とし、夜は枕ともした、唯一の友は、實に彼等の、主義の叫びであり、生命であつた所のパンフレツトであつた。更に、かうした、彼等自身の生活の苦衷の中にも、彼等は、彼等自身の任務である、機關誌の發行を、おこたらなかつた。彼等は如何にして、この機關誌を出さんがために、血肉を搾つたかは、私は今玆で述べるに、しのびない。それは、悲痛、そのものである。

かうした、生活を續けてゐる内遂に彼は朝憲紊亂の罪に問はれ、三年の月日を獄屋に苦吟しなければならなかつた。當時はあたかも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

心を、
しかして、それは眞面目にして
熱心なる人の常にもつかなしみなり
はてしなき議論の後の
冷めたるココアの一匙をすゝりて
そのうすにがき舌觸りに
我は知るテロリストの
かなしきかなしき心を――

政治家

成日少女がお母さんにこんな質問をかけました。
「お母さん政治家とは何のことですの?」
お母さんは微笑み作ら
「お前妙なことを尋ねるね、そんなことをたづねて何にするの?」
「だつてお母さん、學校の先生がさうおつしやいましたの、政治家には男でも女でもなれるつて、」
母はカラ〳〵笑つて云ひました
「孃や、政治家とはね、人間のことなのよ、人と人との間に差別のある世の中では丁度お巡りさんの樣な役をする人のことです」
「ではお母さんその人は何の番をするでせう?」
「その人達は私有財產といふものを見張りするのです」
「お母さん、それでは犬と同じことなの?」
「さうです、犬と違ひありませんいまにね、お前が大きくなればそのことが宜く解つて來ますよ」以上の如き短文等も子供の腦裏などにはよく打響く文だらうと思ふ。第二期第三期の事は又いづれ詳載することゝして筆を止む(一九二五、三)

世界無產階級四月の歷史

二日—(一九二二年)第二、第三、第二半インターナショナルの代表者ベルリンに會して共同戰線を議して成らず
五日—(一七九四年)フランスの革命家ダルトン斷首さる(三十六歲)
五日—(明治卅一年)日本鐵道會社機關手「我黨待遇期成大同盟會」を解散して「日本鐵道矯正會」を組織す
六日—(一九一七年)ドイツ獨立勞働黨社會民主黨より分離してゴーターに創立大會を開く
九日—(一九二二年)孫逸仙關東洲總督となる
九日—(大正十一年)「日本農民組合」神戶に於て發會式を擧ぐ
十一日—(明治三十九年)市電値上反對市民大會上野に開かれ官憲と衝突す
十四日—(一九一六年)非戰派國際社會黨會議キエンタールに開催さる
十六日—(一九二一年)炭坑夫罷工を後援せるイギリス「三角同盟」の結束破る所謂「暗の金曜日」なり
十七日—(一八八二年)イギリスの進化論者ダーウヰン死す
十七日—(一九二二年)獨露協會ラッパロに締結さる
廿五日—(一九二一年)ファスチスト反對の總同盟罷イタリヤに勃發す
廿五日—(大正九年)東京市電從業員同盟罷工を開始す

この無產階級の世界的歷史に關する日記は毎號掲載して行きます。

アナーキズムよりボルシエヴイズムへの轉還期であつた。無節操にもアナよりボルへの裏切者が續出した。彼の友は、彼のかつての同志の、殆んど總てが、國境を超へシベリアの地を踏むや、いなやたちまち、ボルシエヴイズムに變節した。そして幾日足らずして彼等は、若干の金を携へ、ケバ〳〵しいなりをして日本に歸つて來た。然し裏切者は、新歸朝者然としてカフエーのウエートレスに、若干のチップを與へたにせよ、昔の同志を獄屋に見舞ふはおろか、未決中の彼に一本の差入れもしなかつたのである。彼は獄屋に苦惱し、出獄後の運動計畫を樹てゝゐる時夢にも彼の同志は、彼を捨て、彼を裏切り異國の女を抱擁し亂舞してゐるとは思はなかつたであらう

やがて彼は出獄した。然し、かつての彼の同志の中、一人として彼を見歸り、行動を共にしようとするものはなかつたのである。彼は悲哀のドン底につき落された。今更に、人の世のつれなさが、いとゞ身に沁みたのである。そこに至つて、彼の胸にこみ上げて來たものは何であつたらうか、虛無そのものではなかつたらうか――。

スチルネリアンとしての彼は、今寂しげに、微笑しながら、人生獨自の路を歩んでゐる。

彼をスチルネリアンとしたものは誰か。それは今更云ふ迄もなく日本の變節無節操の社會運動家そのものである。然し、一概にアオよりボルへの推移者を變節漢と見なされない。だが、かうした排他的傾向は、社會運動主義者間に於てもなかつたであらうか。否あまりに事實は、その弱點を暴露してゐる。又、運動其ものに對する主義者の行動に惡い處がなかつたであらうか。あまりに民衆と、かけはなれはしなかつたらうか。

無論從來の社會主義運動には、一つの組織すらもなかつた。最も大切な人格的態度もなかつた。人格無用をとなへる共產黨の親玉のまがりなりにも存在してゐた過去の時代であつたから、それもやむを得ないが。

兎に角、今迄の社會主義運動はあまりにダレ切つてゐた。かうした意味で、更に新しい、より眞面目な、眞劍な人達を生み出す機運を促進した點に於て、私は、治安維持法案に感謝する。來るべき人達は、この前者の轍を履まざる樣新しき感激と力と組織を以て無產階級解放の黎明戰に進まれる樣、切に希望する。來るべき社會は、青年達のものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國際的運動へ跳躍せよ

支那　谷朴秀

國際間の關係が凡ゆる民族及國民生活に重大なる關係を持つやうになつた今日、吾々の一國家乃至一民族間に於ける生活はやがて全世界全人類の生活に重要な地位を占めて居ることは今更新しく說く迄もないが、吾々の眼から見れば日本の一般民衆は或意味に於て最も惠まれた生活の所持者である。從つてそれ丈吾々に比べて眞の無產者としての徹底した意志に缺けて居はしないかとも思はれる。何が故に惠まれた生活の保持者であるかと云へば、敎育の程度が總括的に普及して居る此の故に有產階級に對する無形の有力な戰鬪力を持つて居る事である。日本に於ける無產階級の戰鬪準備は已に十分調つて居るとも言ひ得られる。何故ならば革命に最も必要な、而して最初の工作は破壞である。若し破壞が完全に行はれたとすれば次いで着手すべき建設は極めて容易である。少しも建設は破壞事業のそれ程困難なものではない。唯今日の殆んど完全に近い迄行き屆いた資本主義制度の下に現存する社會組織を、如何にして完全に破壞し去るかゞ問題である。そこで極めて有力且つ綿密に組立てられた現在の資本主義制度下の社會を完全に崩壞せしめ徹底的に之を破壞し去るには、之に對應し得る丈けの否之に優つた丈けの力を必要とする。暴力必ずしも否定すべきではないにしても單なる暴力に依つて破壞さるよく現在の社會は餘りに根強い根底を以て居る。然らば何に依るか、他無し精練された衆力を生出すものは敎育であるこうした意味に於て日本め民衆は有力なる步器の持主であるが、併し悲しい哉その敎育たるや曾て國家主義者否帝國主義者が而して今を盛りと驕り誇つて居る資本主義者が自己の地位を而してその特權を安畳保持せんが爲に施した敎育法に依る敎化の賜でしかない。從つて日本に於ける大多數の無產者が果して敵の謀計に依る、敎育から自己の現社會に於ける地位を的確に認識し得る丈けの智識を開き得て居るか否かは疑ひなきを得ない、計らんとする者に油斷はないが多くの場合計られるものには油斷がある。所謂「忠孝」の二字を正解せず盲目的信仰を强られた日本人「義理人情」に篤い日本人がその傳統的絆を解脫し、眼覺めた自己に甦つて、自己の立てる地位を的確に認識し、その自己意識に依つて動く丈けの意志と理性を成長せしめ躍動せしめつゝありや否やに依つて日本の無產階級か日本の社會に於ける强者であると同時に世界の無產運動中の選手であるや否先驅者たり得るや否やが、決定される譯である。此の問題は吾々が將來日本の無產階級は世界の無產運動に列入し携手して水平運動を共策する上に必要缺くべからざる重要案であるが、今日迄の見聞を而して現在日本の大多數無產者の實情を以て冷靜に考慮する時吾々は日本の無產階級を國際的無產運動に列入することは考へものであるとの解答に躊躇せざるを得ない。勿論斯くの如き妄斷を日本の無產階級は容認しまいし、私自身も以て幾分なりとも日本の同志諸君の參考ともならばやとの好意に出發して斯く言ふ迄の事で遠からざる將來に於て今日の此の妄斷が一笑に附せらるべき日あるを信願期待するものであることは言ふ迄もない。偖て私が何故以上の如きことを敢て言ふかと言へば日本に於ける大多數の無產者は日本なる一小會社に於てこそ俺はプロレタリヤだ無產者だと斷言し得る地位に擁して居るが、一度世界の大舞臺へ投け出した時その地位はその本質は必ずしも正眞正銘な無產者ではないのだ。（の定義に對する解釋は、他日之を論ずるとして）最も手近な例を擧けて云ふならば米國現時の勞働者は嚴正な意味に於て米國以內に於て立派な無產者であるかも知れないが世界を基準としての無產階級と號稱して國際的無產者の列に入る資格を持つては居らない。それと同樣日本の無產階級は日本國內に於てこそ立派なプロレタリヤであらうが、一度國境を撤去して考察する時骨迄香ぐはしいプロレタリヤとして肯定することは出來ない幾多の條件を具備して居る。斯く言ふが故にその現在の生活がいけないと云ふのではない要はその質である、日本の無產階級現在の環境の下に於て最も好もしい國際的無產運動の起來を期待することは、或る意味に於て無理である。より大なる苦痛とより大なる壓迫の下に於てよりよき結實効果を期待し得るとのありふれた見解に依つて私は斯くは云ふのであるが、私が日本の無產階級並にその階級意識感情の發情、運動の模樣等に對して不滿を感じて居るのは必ずしも故なき邪見ではないと信ずる。そこで私が瞬東日本の同志諸君に對して衷心から希望する所のものは日本と言ふ世界五大國の一たる殼內に於て自分達丈けの僅か幾千萬かに足らない無產者の向上や戰利を標準とせず、その眼界を大にし國境を越へて人類を基調とした國際的無產運動に突入し、遂には把持し能はぬ國境線を打破つて世界の無產運動に向つて猛進せんことである。（三月十日）

盗泉を飲まず

渴しても盗泉の水は飲まず。孔子はえらい事をいふたもんだ。浪浪たる反逆兒の意氣正にかくありたいものだ。耳が痛いであらうがそんじよそこらの人達に聞かせてやる。人或はいふであらう。組織的運動には金がいる。無產者にはその資金がない。須らく敵を利用すべきだと。それも結構だが、いつしか手段が目的となつて、私腹にのみ費さぬやう、無產大しうの觀念を忘れぬ樣、肝要だ。（小助）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社便り

「進め」の原稿は商品に非ず

▲賣文業者、その他の人達によつて書れた原稿を資本主義社會に於る商品と同視し、文章に現はれた思想が無產階級解放に役立つ立派なものであつたならどんなによつて書かれたものでも雜誌に載せてよいか？社會主義雜誌の原稿を商品と同視するならこれを載せることに異存はないであらふ

▲然し社會主義雜誌、しかも無產階級鬪爭雜誌たる我「進め」の原稿は商品として取扱ふことは、筆者に對し、また運動の責任上出來ない、若し思想的にいゝものでさへあればいゝと云ふなら無產階級戰線の攪亂者、スパイ、裏切者、の原稿も載せねばならぬことになる

我々の運動が單に思想の切賣り思想の販路を廣めると云ふだけならそれでもよいであらふが、社會主義運動は人間を離れた思想の遊戲でなく運動者個々人の精神の波打つ運動である限り、社會主義としての道德を守らざる者の原稿は斷じて載せることは出來ない。

▲改造や中央公論の商賣雜誌のヘキダメとは異り吾が進めの原稿はたとへ文章は拙くとも一字一句ことごとく魂が打込んである(狂二)

渡邊君の負傷と最近の我社

◇去る三月七日の「治法」最後の反對運動に於て、我が社の敬愛する同人渡邊理治君は、官憲のため眼に少なからざる負傷を負ひ、未だ全治するに至らないで居る。

◇事の仕末はかうである。當日最後の反對示威運動日に同君は社內の同志五六名と共に出掛けたそして衛藩から數百の同志と共に議會に向つて直ちに進行したが、例の如く御成門で直ちに官憲と大格鬪が初まつた。渡邊君も其の際檢束され三人の私服、制服に手足を押へられて引かれたが、其際官憲が卑怯にも尚打つ蹴るので、同君は甚だ憤慨し、猛然官憲の手を振り放すと共に、同君も阿修羅の樣に暴れ、官憲共を片端から撲り廻つた。だが然し衆寡遂に敵せず、電車通の眞中で十餘名の官憲に包圍される所となつて、撲られ、蹴られ、突かれ、遂に血に染つて倒れた。

◇我々は何んと云つても未だ弱い彼等に敵はない。官憲は我々をいぢめるのが商賣だ。我々は甘じてこの迫害を受けよう。我々は未だ弱いのだ。これが口惜しければ、我々が自由に彼等を檢束し得る日を一日も早く導くより他はない。我々は渡邊君がかくして可成り重傷を負ふたけれ共、勿論告訴も何もしない。

◇來るべき日の爲に—我々の心はこの一語に盡きる。

◇我が社は最近益々內外共に充實して行つて居る。期す、捲土重來資本主義の牙城を襲ふ日を。天下の同志諸君願はくば我等の爲に誠意ある援助と叱正とを吝しむ勿れ(雲助)

三日見ぬまに

暴案は通過して、春は今年も完全にブルヂュアーの上にのみ。然してここ暫し、花は花永久の春を彼等の前に競ふであらう。

世は正にブルヂュアーの花盛り彼等の酒宴は暴案の上に安座して金杯に人間の膏血を降らし、經濟學者も思想家も昨日の鬪士も大方は、その流れに向つて方向を轉換せんとしつゝある。悲しい哉プロの春。

嗚莫三日見ぬ間に咲く花は、三日見ぬまに散るべき運命の花である。吾等はこの短かき需酒を得て終生を奴隷の狀態に陶醉することは出來得ない。

我等は飽迄不合理に向つて宣戰し、戰ひ敗れば敗るゝことに吾人の戰意は高鳴なり、雪霽るの日を窺ふものである。(渡邊)

小助の傳

◇人間はどこかで生れたものである。といふ、それがし小助の產も雪の窩原南部で御座る。南部と云へば駿馬の產地、都に出てから、かれこれ一月あまり、櫻田の一角に日夜毎夜、騷音と共に生きて御座る。

◇都に居れば、春が來たとて春駒の嘶きも聞えず、聞こゆるものは—電車、自動車、火事—おまけに貧乏神の聲と來て御座るからいやはやきれたもの、夜半月傾く頃は、そゞろに古里戀しう御座る。

◇人間は誰しもお國の自慢はするもの、小助の生國も、それやよい所で御座る。半年は、雪に埋れ、寂寥と戰ひ、寂寥を友とし、後の半年は、牧場は高原を躍り跳る時で御座る。月がヌツと高原を覗く頃は、さぞ村乙女のラブシーンも御座らう。

◇だがなさけない事にほ、小助の國は貧乏國で御座る。それは、その筈、馬の盛んな所は耕地の不足な草原地帶、交通不便な山國、產業振はずして、資本主義の文明にとう／＼とやつて來られたものだから、やりきれたものではない。富は二三ケ所に吸ひ込まれてしまひやした。

◇文明は有難いが、いやなもの、貧乏人を殖し、家庭を壞し、「人間」を奪つたものなんと憎らしいものでは御座らぬか。

◇これから生れる貧乏人の二男三男坊は、何れも小助の如く、故里を追はれねばならぬ人、地は歸るに家なき人々によつて滿されるの日も遠くはあるまい。

◇自然に歸るの日、自然を共として働くの日は何時か(虎之門小助)

おしらせ

◎報告　新潟縣第二支局瀧澤要平氏は家庭の都合上今後支局の經營を續けて行く事が不可能になつたので過日支局の取消を申込まれて來ましたから本社は非常に殘念に思ひましたけれど止むを得ない事で早速承諾致しました。此段各位に御報告致します。

◎本誌の見本を請求される方は必ず切手を十錢封入して申込んで貰はねばなりません。雜誌の一部や二部位ひたゞで貰へるなど〻圖々しい考へを持つて雜誌の見本を請求して居られる方は實に不都合だと思ひます。これからはどんな場合でも誌代を拂はないで雜誌を請求しても一切送らない事に決めました。

◎三月號(三週年紀念號)は例に依つて發賣禁止のため、大部行き渡らなかつたところがあつたので大變不平もあつたらしいですがどうか御諒解を願ひます。本月號も多分禁止だらうと思ひますから前以つて豫告致しておきます。

◎雜誌「戰へ」の御注文は成るべく發行所の方へねがひたいものですく本社で送本するとかく間違ひを生じやすいですから。右の雜誌は有名な偉物見德樋口氏が擔當して全力を注いてゐるものですから金箔付きの好雜誌たることこゝに云ふまでもありません。

◎名、京、阪、神の各地を進め社員だと云つて渡り歩いては惡事を働いてゐる俗稱「日本一の革命家」山田靜兒と云ふ男がゐるさうですがそんな男とは本社は何の關係もないのですからツマレない御用心が肝要です。(よの字)

春は勝利だ

雪は非常に草の芽を恐れてゐました。そして芽を出さない樣に芽を出さない樣にと努めてゐましたが降つても降つても春の女神がきれいに消してしまひます。雪はたう／＼敗けました。そして地上一面の青々しい春となつてしまひました。

春を防がうとする馬鹿者が文明の現社會にあきれる程ゐるのだ。治案の雪位いくら降つたつて春は音も立てずにやがてやつて來るのだ春の雪は一日と續かない。治案の生命は幾何もない話はかうしたおとぎ噺た。

諸君！無產階級の勝利を確信して呉れ給へ。その信念は戰の勝利だ天下は春だ。(谷口直平)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新方丈記

山川亮

徳川三百年の權力は、所謂處士横議の結果によつて、根底から打倒れた。井伊大老の果斷から生れた、クー、デ、ターも一時は、この處士横議を窒息させたやうにも見えたが、結果に於ては、徳川幕府の死期を早めるやうになつた。

山陽頼久太郎が日本外史を書いてから、南洲、甲東、松菊の三人が現はれる迄の何十年間は、所謂この處士横議の時代であつた。處士横議――これを現代語に飜譯すれば、つまり新思想家の（或は自由思想家の）言論である。その言ふ所は常に正しく、理義明白である。幕府の執政は、この處士横議のために、絶えず惱まされた。と云ふよりは、寧ろ脅かされたと云ふ方が眞に近い。一世の權力に抗してまでも、その所信をまげずに堂々と論じ得る人の言論には、常に眞理がある。而もその眞理を裏附けてゐる熱意がある。いかなる權力者も、眞理の前には力がない

井伊大老が處士横議を恐れて、安政の大獄を惹起したのは、この眞理の前には、自己の無力であることを知つて、その眞理の傳道者を一網打盡に窒息せしめやうとしたのである。松陰、雲濱、頼三樹、左内其他數々の士が、悉くその犧牲となつて了つた。而もこれはかりでは止まらなかつた。安政大獄の責任者井伊大老も、その道伴れとなつて、櫻田門外に斃れた。

處士の横議を恐れて、一擧にそをは窒息せしめやうと、暴力を振つたその人間も、次の瞬間には、被暴力者の暴力の爲めに、たたきつけられてゐたのである。處士横議に嵌口した結果は、思想が單なる思想としてのみに止まらずに、實行にまで移つて行つたのである

思想が單なる思想としてのみ、論ぜられてゐる間は、決して恐るるに足りない。それが行動化されて來た瞬間から、一波は揚がり千波萬波それに應じて、終局は狂瀾となり怒濤となる。

井伊大老のクー、デ、ターは、要するに狂瀾怒濤を捲き起す、第一波となつたのである。口を塞がれて、その意志表示の術を失つたものは、手と足とに訴へて、自己を語らうとする。井伊大老の明敏を以てしても、自己の權力に恃み過ぎた時に、これ程に判りきつた事實に對して、その判斷を誤つた。

然し考えて見ると、その數年前には、有名な安政の大地震があつた流言蜚語は、それ以來巷に絶えなかつた。質實勤儉を以て、天下を取つた三河武士の末も、何代か續いた此頃では、竹刀を擔いで道場通ひをするかはりに、稽古所へ通つて唄や三味線に、憂身をやつしてゐる。社會狀態は行詰りになつて、江戸、京、大阪三都の豪商は王侯のやうな榮華を盡してゐるのに、地方の農民は土百姓と云はれて、犬猫扱ひの生活に喘いでゐる。これだけでも、幕府の執政にとつては、一方ならぬ惱みの種であつたに相違ない。そこへそれらよりも、より以上に恐ろしい、處士横議と云ふ厄介者があつた。井伊大老と雖も、流石に血迷つたのであらう。浦賀の沖には、赤毛の黒人ペルリが、黒船數艘を率いて、示威運動を行つてゐる。結局は異國人の言ふ通りに、開港貿易もしなければなるまいが、それを實行するに當つて、差當り邪魔者、否恐ろしいのは、この處士横議だ。これを何とか片附けてからでなくては、開港も出來ない、公武合體の實も擧がらない。左樣だ、ヤツツケテシマへと云ふのが、その時の井伊大老の腹ではなかつたか。

慶安の反逆兒正雪が、徳川の權力を相手に一芝居打つて以來、二百年後に漸く望み協つて、井伊大老の手で、芝居ならば中幕が切つて落されたのである。

大正十二年九月一日に、關東地方に大地震があつて、帝都は混亂に陷り、時の權力者は、今にも首都は革命軍の手に奪はれるかと、狼狽醜態を極めたことは、未だ記憶に鮮かな事である。そして今年震災二年後には、何を狼狽たのか治安維持法と名づける、處士横議の嵌口令を提出して、衆議院は一も二もなく、それを可決して終つた。外には赤毛人の國ロシアとの通商開始を目前に控え、失業と生活難の叫びは、都鄙に充ち滿ちてゐる光景である。そして帝國ホテルの舞踏場と、到る處の劇場其他の歡樂場は、大中ブルヂョアとその子弟達とで、大入滿員の盛況を續けてゐる。これでは井伊大老の辣腕を以てしても、恐らく前後忘却して血迷ふであらう。況んや一人の井伊大老をも宥しない、現政府が血迷ふのは無理もない。然し無理がないと云つて、治安維持法を出したのでは、出された方が默つてゐられない。生活本能の命ずるままに、窒息から脱れる方法を講ずるのが當然である。人間に與へられた生命力は、その生命力が伸び切るまでは、如何なることをしても、伸び盡さうとするのが自然である。假令は此頃帝都に名物の、放火とピストル强盗とであるこの放火に見舞はれた時には誰でも、水を打掛けて火を消し止めやうとする。ピストル强盗に入られた時には、自分の生命を保護しやうと十る。これは所謂生命力の無意識の命令で、人間（否生物）として當然の行爲である。吾々はそれと同樣の心理で、この治安維持法を觀察しやうとする。

一波揚がつて、萬波從ふとか、一犬吠えて、萬犬和すとか、古人は言つた。一波は既に揚がり、一犬吠えた。即ち治安維持法がそれだ。處士横議に恐れて、嵌口令を施くことは、その事が既に、權力階級の龜裂を示す。大正の大地震は大正のクー、デ、ター。而してその後に來るものは何？？

白晝帝都を脅かす暴力團、暗夜銀座街道に出るピストル强盗、連

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夜の放火事件……と數して來ると限りがない。帝都治安維持に努めてゐる當局は、何をしてゐるのかッ。と大分諸君名士が憤慨してゐられる、然しこの暴力團やピストル持参の「手を上げろ」先生や、放火犯君も、その抑々を調べ上げれば、恐く「飯の食へぬ」が原因してゐることは、警視廳の調査に依つて明かではないか。その原因を究めて根絶策を執りもしないで、むやみやたらに、憤慨した所で、それは御無理と申すものだ。既に石川五右衛門君は、豐太閤の猿面冠者と、その權力を爭つて、捕まつて釜うでの刑に處せられる時に、「石川や濱の眞砂は盡きるとも、世にドロボーの種は盡きまゐ」と警句を吐いてゐる。資本主義社會に對する、一大痛棒である。資本主義の存在する限り、石川の濱の眞砂は盡きても、恐らく世にドロボー君の跡は絶えないであらう。誠にけしからぬ次第である。それならばと開きなほつて、そのドロボー君の跡の絶えるやうにすれば、いいぢやないかッ、と叱り飛ばせず都合好ささうだが、オツト險呑々々、其處にはチヤンと治安維持法氏が、刀に手を掛けて待つてゐる。だから諸名士君も、其處へは行かないで「早く犯人を縛らないかッ」と大喝一聲される理由である。尤もそれはかりではない。餘り原因まで溯り過ぎると、御自分達の首も危い。勞農獨裁なんて、不心得者が出やうものなら、それこそ取返しのつかぬ、神武肇國以來の大椿事である。即ち、片手に治安維持法をヒン握つて、大聲疾呼「帝都の治安維持に勤める警官は、何をぐづぐづして居るカッ。」

高島米峰先生は、この現象を評して「大暗黑時代出現の前兆」と言つて居られる。そして大きな暴力が、小さな暴力を一蹴して、統一的な暴力が、國家を支配する日が來るのではあるまゐか、と言つてゐる。まさか、和製ムツソリニでもあるまいが、然し治安維持法は、日本無産階級の上に、押冠さつて來た一個の暴力ではないか。バラツクの帝都に住む吾々は、放火犯やピストル強盗に脅かされると同様に、この暴力に脅かされると同様に、この暴力にも脅かされる。「帝都無産階級の治安維持法に任ずる警官は、何を居眠りしてゐるのかッ」と云ふ所だが――然しまあ待て……だ。

小さな暴力（其もコソ泥的な）や小泥棒の横行に對して、暗黑時代出現の前兆と豫斷した米峰氏は、大正十四年二月十九日に、日比谷の空を通過した、組織的暴力に對しては、何と批評されるか。燒くものもなく、奪はれるだけの財産もなく、生命一つを持ち物にしてゐる無産階級にとつては、連夜の放火やピストル強盗よりも、この方が恐ろしい。まつたく、命あつての物種だからである。

「つらつら世相を觀ずる」までもなく、今の時代がどんな情態にあるかと云ふことは、毎日の新聞をさへ讀んでゐれば判るのである。東京赤坂區内ではチブス病が流行してゐる、而もそれが上流の家庭ばかりだ（三月十一日東京朝日）昔はそんな病は貧乏人ばかりとなつてゐた。不良少女の一團が檢擧せられた、而も中流以上の家庭の子ばかりである（三月十日夕刊東京朝日）惡い子供は貧乏人の子供ばかりと、昔から相場をきめられてゐた。待合へ二百圓の脅迫をして、捕へられた犯人は、某師範學校教諭の息子だつた。（九日、東京朝日）強盗はこれも昔から、裏町の貧民窟から出るものと、數へ込まはて來たものである。斯くの如くに、一寸眼の前にある新聞を一瞥しただけでも、處士ならずとも、何とか横議したくなるではないか。この横議を恐れる權力者階級は、その前に何故こんな不良見が、上中流のブルジョア家庭から輩出するかを、恐れなければならぬ。それも口先ばかりで恐れ入つて、武士道や浪花節や國粹會を擔ぎ出しても、この國民の頽廢は防止出來ない。

燎原の火、と云ふ語があるが、現代日本の頽廢的傾向は、まだまだ深くなると思ふ。ちやうど革命前のロシアが、さうであつた如くに、今後の日本も、まだまだ頽化して行く。そして最後に「俺達はもう何もすることもない。カルタでもして遊んでゐやう」と云つた調子まで落ちて了つて、二進も三進も動けなくなつて、そこでドカンと來る。か來ないか。兎も角もチエホツフの數多くの短篇に書かれてゐるやうな、頽廢時代が既に我國には、來りつつあるのではないかと思ふ。

普選は施かれるであらう。大正十七年には、新しい選擧法に依る第一回の、總選擧が行はれるであらう。無産階級もそれに刺戟せられて、漸次に眼覺め活氣づいて來るであらう。無産階級の活氣に連れて、治安維持法は、じりじりと刀を拔いて來る。そして、それに連れて、今日の所謂智識階級者の大部分は、愈々頽化して行く。それは軈て滅亡への道である。「おい俺達はカルタでもして、遊んでゐやう。戸外の事なんか、どうだつていい。」この傾向は既に今日の、智識階級人の中に現はれてゐる。如何に思想善導に邁進となつても、善導する方に、善導されなければならぬ程の、空虚が存在してゐるから、勞して甲斐なき結果に終るの他はない。

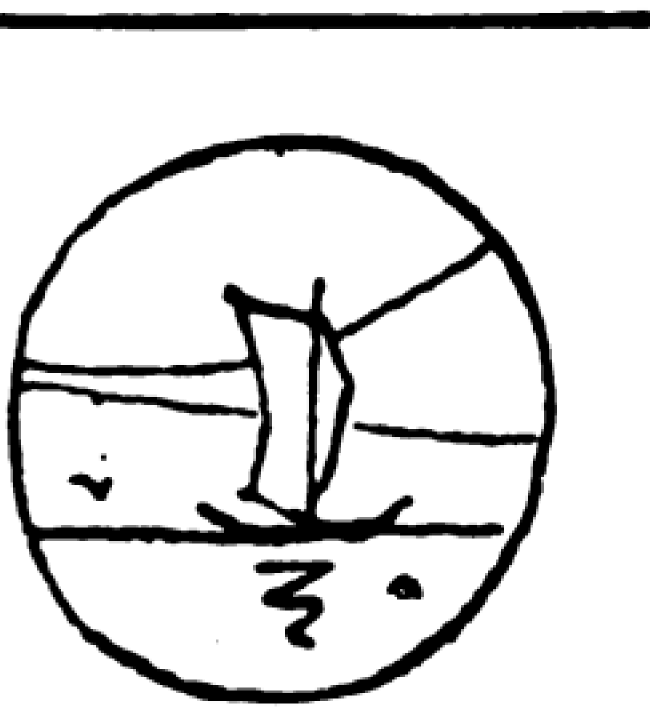
そこに氣が附いて出現したのがこの治安氏である。資本の代辯を勤めるこの頽化智識人や、空頭目をたたき廻る古手の軍人どもに、この大切な御治世を任して置いたのでは、到底枕を高くして眠ることは出來ぬ。それでと云ふので、ブルジョア資本家の出店、一名護憲内閣が加藤内閣を突ついて、樞密院にも尻押しをさせ、「どんなもんぢや」と突出した。

權力階級、資本階級にとつては、放火犯人やピストル強盗よりは、處士横議の方が數十、百、千倍も恐ろしいと見える。何故なら、それが眞理を語るからである。自分がその眞理の前には、頭の上がらない罪人だと思ふからである。

つまり治安維持法は、この罪人の深刻な告白狀である。無産階級の前に立たせられた權力階級の罪狀判決文である。

これも所謂處士横議の一部類でもあらうが、向ふ三軒兩隣・もしお耳に觸ることがあつても、禮に慣はぬ野人の語と思つて頂きたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



新方丈記

山川亮

徳川三百年の權力は、所謂處士横議の結果によつて、根底から打倒された。井伊大老の果斷から生れた、クー、デ、ターも一時は、この處士横議を窒息させたやうにも見えたが、結果に於ては、徳川幕府の死期を早めるやうになつた。

山陽頼久太郎が日本外史を書いてから、南洲、甲東、松菊の三人が現はれる迄の何十年間は、所謂處士横議の時代であつた。處士横議——これを現代語に飜譯すれは、つまり新思想家の（或は自由思想家の）言論である。その言ふ所は常に正しく、理義明白である。幕府の執政は、この處士横議のために、絶えず惱まされた。と云ふよりは、寧ろ脅かされたと云ふ方が眞に近い。一世の權力に抗してまでも、その所信をまげずに堂々と論じ得る人の言論には、常に眞理がある。而もその眞理を裏付けてゐる熱意がある。いかなる權力者も、眞理の前には力がない

井伊大老が處士横議を恐れて、安政の大獄を惹起したのは、この眞理の前には、自己の無力であることを知つて、その眞理の傳道者を一網打盡に窒息せしめやうとしたのである。松陰、雲濱、鴨三樹、左内其他數々の士が、悉くその犧牲となつて了つた。而もこれはかりでは止まらなかつた。安政大獄の責任者井伊大老も、その道伴れとなつて、櫻田門外に斃れた。

處士の横議を恐れて、一擧にそをは窒息せしめやうと、暴力を振つたその人間も、次の瞬間には、被暴力者の暴力の爲めに、たたきつけられてゐたのである。處士横議に嵌口した結果は、思想が單なる思想としてのみに止まらずに、實行にまで移つて行つたのである

思想が單なる思想としてのみ、論ぜられてゐる間は、決して恐るるに足りない。それが行動化されて來た瞬間から、一波は揚がり千波萬波それに應じて、終局は狂瀾となり怒濤となる。

井伊大老のクー、デ、ターは、要するに狂瀾怒濤を捲き起す、第一波となつたのである。口を塞がれて、その意志表示の術を失つたものは、手と足とに訴へて、自己を語らうとする。井伊大老の明敏を以てしても、自己の權力に恃み過ぎた時に、これ程に判りきつた事實に對して、その判斷を誤つた

然し考えて見ると、その數年前には、有名な安政の大地震があつた流言蜚語は、それ以來巷に絶えなかつた。質實剛健を以て、天下を取つた三河武士の末も、何代か續いた此頃では、竹刀を捲いで道場通ひをするかはりに、稽古所へ通つて唄や三味線に、憂身をやつしてゐる。社會狀態は行詰りになつて、江戸、京、大阪三都の豪商は王侯のやうな榮華を盡してゐるのに、地方の農民は士百姓と云はれて、犬猫扱ひの生活に喘いでゐるこれだけでも、幕府の執政にとつては、一方ならぬ惱みの種であつたに相違ない。そこへそれよりも、より以上に恐ろしい、處士横議と云ふ厄介者があつた。井伊大老と雖も、流石に血迷つたのであらう。浦賀の沖には、赤毛の黒人ペルリが、黒船數艘を率いて、示威運動を行つてゐる。結局は異國人の言ふ通りに、開港貿易もしなければなるまいが、それを實行するに當つて、差當り邪魔者、一番恐ろしいのは、この處士横議だ。これを何とか片附けてからでなくては、開港も出來ない、公武合體の實も擧がらない。左樣だ、ヤツツケテシマヘと云ふのが、その時の井伊大老の覺悟ではなかつたか。

慶安の反逆兒正雪が、徳川の權力を相手に一芝居打つて以來、二百年後に漸く望み協つて、井伊大老の手で、芝居ならば中幕が切つて落されたのである。

大正十二年九月一日に、關東地方に大地震があつて、帝都は混亂に陷り、時の權力者は、今にも首都は革命軍の手に奪はれるかと、狼狽醜態を極めたことは、未だ記憶に鮮かな事である。そして今年震災二年後には、何を狼狽たのか治安維持法と名づける、處士横議の嵌口令を提出して、衆議院は一も二もなく、それを可決して終つた。外には赤毛人の國ロシアとの通商開始を目前に控え、失業と生活難の叫びは、都鄙に充ち滿ちてゐる光景である。そして國ホテルの舞踏場と、到る處の劇場其他の歡樂場は、大中ブルヂョアとその子弟達とで、大入滿員の盛況を續けてゐる。これでは井伊大老の辣腕を以てしても、恐らく前後忘却して血迷ふであらう。況んや一人の井伊大老をも有しない、現政府が血迷ふのは無理もない。然し無理がないと云つて、治安維持法を出したのでは、出された方が默つてゐられない。生活本能の命ずるままに、窒息から脱れる方法を講ずるのが當然である。人間に與へられた生命力は、その生命力が伸び切るまでは、如何なることをしても、伸び盡さうとするのが自然である。假令は此頃帝都に名物の、放火とピストル強盜とである。この放火に見舞はれた時には誰でも、水を打掛けて火を消し止めやうとする。ピストル強盜に入られた時には、自分の生命を保護しやうと十る。これは所謂生命力の無意識の命令で、人間（否生物）として當然の行爲である。吾々はそれと同樣の心理で、この治安維持法を觀察しやうとする。

一波揚がつて、萬波從ふとか、一犬吠えて、萬犬和すとか、古人は言つた。一波は既に揚がり、一犬吠えた。即ち治安維持法がそれだ。處士横議に恐れて、嵌口令を施くことは、その事が既に、權力階級の龜裂を示す。大正の大地震大正のクー、デ、ター。而してその後に來るものは何？？

白晝帝都を脅かす暴力團・暗夜銀座街道に出るピストル強盜・通

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夜の放火事件……と數して來ると限りがない。帝都治安維持に努めてゐる當局は、何をしてゐるのかッ。と大分諸君名士が憤慨してゐられる、然しこの暴力團やピストル持參の「手を上げろ」先生や、放火犯君も、その抑々を調べ上げれば、悉く「飯の食へぬ」が原因してゐることは、警視廳の調査に依つて明かではないか。その原因を究めて根絶策を執りもしないで、むやみやたらに、憤慨した所で、それは御無理と申すものだ。

既に石川五右衛門君は、豐太閤の御冠者と、その權力を爭つて、捕まつて釜うでの刑に處せられる時に、「石川や濱の眞砂は盡きるとも、世にドロボーの種は盡きまゐ」と警句を吐いてゐる。資本主義社會に對する、一大痛棒である。資本主義の存在する限り、石川の濱の眞砂は盡きても、恐らく世にドロボー君の跡は絶えないであらう。誠にけしからぬ次第である。それならばと開きなほつて、そのドロボー君の跡の絶えるやうにすれば、いいぢやないかッ、と叱り飛ばせず都合好ささうだが、オツト、險呑々々、其處にはチャンと治安維持法氏が、刀に手を掛けて待つてゐる。だから諸名士君も、其處へは行かないで「早く犯人を縛らないかッ」と大喝一聲される理由である。尤もそれはかりではない。餘り原因まで溯り過ぎると、御自分達の首が危い。勞農獨裁なんて、不心得者が出やうものなら、それこそ取返しのつかぬ、神武開國以來の大椿事である。即ち、片手に治安維持法をヒン握つて、大聲疾呼「帝都の治安維持に勤める警官は、何をぐづぐづして居るカッ。」

高島米峰先生は、この現象を評して「大暗黒時代出現の前兆」と言つて居られる。そして大きな暴力が、小さな暴力を一蹴して、統一的な暴力が、國家を支配する日が來るのではあるまゐか、と言つてゐる。まさか、和製ムツソリニでもあるまいが、然し治安維持法は、日本無産階級の上に、押被さつて來た一個の暴力ではないか。バラツクの帝都に住む吾々は、放火犯やピストル強盗に脅かされると同樣に、この暴力にも脅かされると同樣に、この暴力にも脅かされる。「帝都無産階級の治安維持法に任ずる警官は、何を安眠りしてゐるのかッ」と云ふ所だが――

然しまあ待て……だ。小さな暴力（其もコソ泥的な）や小泥棒の横行に對して、暗黒時代出現の前兆と豫斷した米峰氏は、大正十四年二月十九日に、日比谷の空を通過した、組織的暴力に對してはは、何と批評されるか。燒くものもなく、奪はれるだけの財産もなく、生命一つを持ち物にしてゐる無産階級にとつては、連夜の放火やピストル強盗よりも、この方が恐ろしい。まつたく、命あつての物種だからである。

「つらつら世相を觀ずる」までもなく、今の時代がどんな情態にあるかと云ふことは、毎日の新聞をさへ讀んでゐれば判るのである。東京赤坂區内ではチブス病が流行してゐる、而もそれが上流の家庭ばかりだ（三月十一日東京朝日）昔はそんな病は貧乏人ばかりとなつてゐた。不良少女の一團が檢擧せられた、而も中流以上の家庭の子ばかりである（三月十日夕刊東京朝日）惡い子供は貧乏人の子供ばかりと、昔から相場をきめられてゐた。待合へ二百圓の脅迫をして、捕へられた犯人は、某師範學校教諭の息子だつた。（九日、東京朝日）強盗はこれも昔から、裏町の貧民窟から出るものと、敎え込まれて來たものである。斯くの如くに、一寸眼の前にある新聞を一瞥しただけでも、處士ならずとも、何とか横議したくなるではないか。この横議を恐れる權力者階級は、その前に何故こんな不良兒が、上中流のブルジョア家庭から續出するかを、恐れなければならぬ。それも口先ばかりで恐れ入つて、武士道や浪花節や國粹會を擁ぎ出しても、この國民の頽廢は防止出來ない。

「燎原の火」と云ふ語があるが、現代日本の頽廢的傾向は、まだまだ深くなると思ふ。ちやうど革命前のロシアが、さうであつた如くに、今後の日本も、まだまだ頽化して行く。そして最後に「俺達はもう何もすることもない。カルタでもして遊んでゐやう」と云つた調子まで落ちて了つて、二進も三進も動けなくなつて、そこでドカンと來る。か來ないか。兎も角もチエホツフの數多くの短篇に書かれてゐるやうな、頽廢時代が既に我國には、來りつつあるのではないかと思ふ。

普選は施かれるであらう。大正十七年には、新しい選擧法に依る第一回の、總選擧が行はれるであらう。無産階級もそれに刺戟せられて、漸次に目覺め活氣づいて來るであらう。無産階級の活氣に連れて、治安維持法は、じりじりと刀を拔いて來る。そして、それに連れて、今日の所謂智識階級者の大部分は、愈々頽化して行く。それは軈て滅亡への道である。「おい俺達はカルタでもして、遊んでゐやう。戸外の事なんか、どうだつていい。」この傾向は既に今日の、智識階級人の中に現はれてゐる。如何に思想善導に躍起となつても、善導する方に、善導されなければならぬ程の、空虛が存在してゐるから、勞して甲斐なき結果に終るの他はない。

そこに氣が附いて出現したのがこの治安氏である。資本の代辯を勤めるこの頽化智識人や、空頭目をたたき廻る古手の軍人どもに、この大切な御治世を任して置いたのでは、到底枕を高くして眠ることは出來ぬ。それでと云ふので、ブルジョア資本家の出店、一名護憲内閣が加藤内閣を突ついて、樞密院にも尻押しをさせ、「どんなもんぢや」と突出した。

權力階級、資本階級にとつては放火犯人やピストル強盗よりは、處士横議の方が數十、百、千倍も恐ろしいと見える。何故なら、それが眞理を語るからである。自分がその眞理の前には、頭の上がらない罪人だと思ふからである。

つまり治安維持法は、この罪人の深刻な告白狀である。無産階級の前に立たせられた權力階級の罪狀判決文である。

これも所謂處士横議の一個條でもあらうが、向三軒兩隣、もしお耳に觸ることがあつても、禮に慣はぬ野人の語と默つて頂きたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

官業勞働運動の
思想的傾向

井上冬波

官業勞働運動と他の勞働運動とを比較して觀察する時其の兩者の間にかなり大きな逕庭が存在して居る事も容易に認知し得る事實である。先般ある席上に於て小岩井氏は「官業運動に方向轉換の必要更に存せず」との意見を開陳せられたが此の言葉は明白に兩者の懸隔を語るものである。然し乍ら同氏の發言を耳にする迄も無く官業の運動は其の勃興以來常に現實を步んで來たのであつて今茲に事新しく方向轉換の必要を高唱する餘地は全然存在しないのである。若し官業運動が徒らに方向轉換に盲從せんか遂には名狀すべからざる齟齬と危險に當面する事は必然である、ある者は官業團體を右傾團體又は御用組合と目して頻りに嘲罵の矢を放つたものだ。然し一工場に多數の大衆を抱擁し鬪爭の直接の敵が政府である官業組合としては勢い現實の覊絆より脫却し得さるは必然の趨勢である然るに是に反し民間の運動は其の勃興當初より常に勇敢に資本主義の牙城に向つて鯨波の聲を擧げて來た。從つて彼等の運動は大衆を無視した高踏的運動の傾向を帶びざるを得なかつた。然し資本主義が將に爛熟の過程を辿らんとする時　代に勃興したる日本に於ける運動の戰術としては一刻も速かに無產大衆をして解放運動終局の目的は那邊に存在するやの透徹せる階級意識を普遍的に喚起せしめる絕對的の必要があつたがために斯の如き高踏的の運動も資本主義の環境に胚胎した蓋し止む得ざる手段があつたかも知れぬ。然し斯の如き戰法は決して永遠に有利のものではない然れば茲に於て總同盟は聲高く方向轉換を天下に向つて宣言した爾後總同盟は官業同盟と相提攜して共に現實の軌道に運動の輪を走らすであらう。此處に於いて偶然にて總同盟と官業同盟とは現實的な同一の步調をとる事が出來たのである。乍然是は運動の單なる表面に過ぎないのであつた兩者の間に潜在する大なる逕庭を看過してはならない。卽ちそれは總同盟は過去に於ける限りなき迫害と苦闘に依つて體驗せる牢固たる思想的武裝を有して居るが官業同盟は素裸體である事である。實に賢明なる總同盟は鋭利なる階級意識のメスを懷中深く呑んでは秋來らば資本主義の肺腑を突かんとしてゐる然し官業勞働者の大半は未だ模糊たる階級意識の零圍氣に蠢動し無產者解放の最終の目的が資本主義の撤廢である事を明白に意識するには至らない。殊に海運聯盟に於て然りである。是は實に悲しむべき地點である。よし今後兩者が緊密なる握手を保持しつゝ現實の原野に馬を疾驅さす事が出來ても兩者の間に潜在する思想的逕庭のため遂には分離する悲運が訪れないも保し難いのである先般官業勞働關西同盟大會が開催せられた際「官營工場拂下反對の件」なる議案に對しある者は「吾人は國家を認めず故に政府が直接生產機關を管理する事に反對する者である」と叫んでサンジカリズムの立場より原案に反對し又或者は「若し官營工場を民間に拂下る時は搾取と失業不安の魔の手は益々擴大するであらう」との現實的見解を以て是を駁擊し多數は遂に原案に贊同するに至つた。本案に對する贊否の兩意見は偶々以て官業勞働者の思想的傾向の一班を窺知し得ると思ふ彼等は未だ無產者解放運動の終局の目的が資本主義の撤廢であり資本主義撤廢の過程として政治革命を以て無產階級獨裁を實現し總て生產機關を無產階級國家の手にの依つて管理せんとするマルキストの戰術に對し全然盲目である。若し今日生產機關を資本家に拂下げんか無產者が政治權力を掌握したる際更に拂下げたる生產機關を再び資本家より强制的に收奪せねはならぬ然し是は容易ならざる二重の手數と犧牲を豫期せねはならぬ故に政府が總ての生產機關を管理する事は個々の資本家の獨占に任ずるより以上に社會主義的組織の境に接近しつゝあるものである資本主義發達の形態は常に自由競走獨占ブルジョア國家管理の階段を踏んで不可避的に社會主義的組織の必要を感ぜしめずには置かない今後資本主義は益々それ自身の體內に胚胎する矛盾と缺陷とを遺憾なく暴露してゴドインの所謂害毒の旋廻である大恐慌を現出し保守的武裝の必要を覺知せしめずには置かぬであらう。然し乍ら近時方向轉換に對する過信盲從曲解から漸く日本に於ける勞働運動が現實的より保守的に退嬰の傾路に辿らんとしつゝある時官業勞働者で思想的武裝の必要を感ずるのは尙前途遙遠の事ではあるまいか。民間の勞働者の中には大衆の中にあつて本流を漕ぐ事を忘れぬ透徹せる階級意識に燃へた多くのコンミニストが勇敢に活動しつゝあるが官業勞働者の中には殆ど曉の星である。近く官業勞働者も無產政黨の傘下に馳せ參ずるであらう然し兩者の間に於ける思想的背景の相違は遂に無產政黨を分裂の危險に遭遇せしめる事はないであらうか若し無產政黨が社會主義團體を積局的に糾合せんとする際最先に反對の鋭鋒を翳す者は官業勞働者ではあるまいか或は政治革命の戰機熟したる際突如支配階級の走狗となつて吾人の陣營を攪亂する者は彼等ではあるまいか吾人は將來に於ける斯の如き暗礁に對し深甚なる厚誡を拂ふと同時に一刻も速かに官業勞働者の思想的發達のために努めねはならぬ。勇敢にして忍苦に富む同志が官業勞働者の陣營に潜入して思想的武裝を慫慂誘導する事は最も望ましい事ではあるが又最も困難な事であるとすれは吾々は今後益々思想運動を興し彼等に明確なる意識を喚起せしめねはならぬ。無產青年運動の如き最も急務なる問題であると信ずる。

（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會劇

醒めざりし者

一幕、一場

西下 貞

時代　現代
場所　或る都會の場末
登場人物　兄
弟（紡績工場の職工）
妹（同　）
その父（病める人）
兄の友人（造船所職工）

舞臺　背景全體眞黑、それに極簡單に白線でもつて長屋の內部を現す正面に入口、裏の出口に勝手道具を雜然と置く
但し裏の出口は下手、上手は舞臺一パイに屋內にする
特に照明を餘り明るくない光線を使ふ
上手に病める父の病床。妹は勝手元で辨當の準備をしてゐる、兄弟は中央の粗末な火鉢を中に話してゐる

兄は右手を切斷されてその傷口が漸く全治した頃

兄「僕が工場から歸つて來てから幾日程になるだらうな」

弟「そうですね（考へて）丁度今日で七十日目になりますね」

兄「早そんなになるかな、早いものだな（悄然とする）」

弟「可成り日の經つのは、早いものですね、然しもう傷口は餘程治くなりましたか」

兄「有難う……もう餘程治くなつたよ、お前達が親切に色々と面倒を見て呉れたお蔭でもうほとんど全治してしまつたやうなものだ、だがね、僕はつく〴〵と僕の不甲斐なさと、お前達に對して濟まないと云ふ事を考へずに居られない、二人の顔を見る度毎に何時も穴でもあれは入りたいやうな氣持になるよ……（以前よりも悄然としてゐる）」

弟「兄さん……（顔を見て）あなたは何を言ふのです、何時もそう云つた事を言ふのは、反つて僕達二人を苦しめるやうなものですよ……他人だつてこうして面倒を見なければならない時にはそうしなければならないでせう然もそれが血を別けた兄弟ぢやありませんか」

兄「いや……お前達がそう言つて呉れると猶更僕はぢつとしてゐられない、お父さんだつてこうして（父の方を見て）永らくの病氣だし……」

弟「兄さん……お願ひですからそんなつまらない事は言はないで下さい……それよりも、もつと〳〵大きな考へがなければならない事が今の兄さんや僕達にあるのですからね……」

兄「いや今の僕には、これ以外に何事も考へる餘地もない、これ以外にて又これ以外に僕は苦痛をも持つてゐない、滿足な身體で働く事が出來なければな――俺は全く意氣地がない馬鹿者だ。あー」

弟「兄さんはどうしてそんなに物事を小さく考へるのです、少しは世の中と云ふものも觀て下さいよ……そうすれば決してそんな考へは起らない筈です、今兄さんの言つて居られる總ては、全く此の社會と云ふものから離れて自らの現實のみを考へ、そして一文の價値もない義理人情と云つたやうなものに囚はれての言葉です……ね兄さん……少しは自分を考へる迄に今の世の中を考へて下さい……そうでせう、今兄さんがこうしてその大きな傷のために働く事が出來なくなつたと云ふ事も決して兄さんが好き好んでしたものではないでせう、何故にこうした苦しみを爲なければならないのかを考へて下さい」

兄「いゝや決してそうではない、總ては運命だ、だが僕にはその運命が餘りに悲慘だ……あゝ此の悲慘な運命！もう俺はそれに絕へられない（全く絕望的に悶へる）俺はどう思つてもお前達に對して濟ない、勘忍して呉れ……俺は永遠に救はれない運命の持主だ……」

父、病床から半身を乘り出す、苦しさうな息づかい。

父「二人共もうそのやうな言はお願ひだから言はないで呉れ、こうしてゐるわしがもう苦しくてたまらない」

弟「お父さんまで同じやうな言を言ふのですか、僕が何時もあれ程に言つてゐるのを少しは考へて呉れたつてよささうなものだ何時も同じやうな事を繰り返すやうですが、決して今の自分達がこうして苦しい生活をつゞけ血の出るやうな思ひをして働かなければならないと云ふ事は、私達が好んでするのではないのです。今の世の中ではそうしなければ生られないからそうする事を今の世のなかの極一部分の人間に依つて强いられるからそうしてゐるのです、然しね私達にもお父さんや兄さんの苦しさを良く解つてゐます、それだから運命だなんて薄片らな世迷言に引摺られて行く事はいけないと云ふのです、もう少し自分達に力があると云ふ事を知つてもらいたいのです、その力に依つてこの運命と云ふものは完全に蹴飛して往く事の出來る事を知つてもらいたいのです總てを、お父さんや兄さんのやうに諦めてしまふのならば一層死んだほうがそうした苦痛を味あはない丈けでも幸福です」

兄はそれをさへ切るやうにして

兄「もう何も云つて呉れるな、今の僕にはどうする事も出來ない……」

弟「いゝえ僕は言います、その兄さんの苦痛と惱みを前にしてどうしても言はずに居られないのです」

辨當の仕度を終つて妹が二人の側に來る。

妹「ねえ兄さん（兄の顔をのぞき込むやうにして）私もあちらでよく聞いてゐましたがね、それはお父さんや兄さんがあゝ言つて下さるのはどれ程うれしいか知れません、だけ共私達にはそんな小さな喜びよりも、もつと大きな喜びの來る事を望み度いのです、私には兄さんやお父さんのやうに諦めると云ふ事はどうしても出來ないのです、考へて御覽なさいよ、こうして私達が毎日苦しい思ひをして働いてゐる時に、私達の働いてゐる會社の社長や重役なんて人達はどうしてゐるとお思ひになりますか、まつたく私達の考へる事もできないやうな生活をしてゐるのですから、それを見る度びにお父さんや兄さんの事を考へずに居られませんよ……それを考へると同時に社長だとか重役だとか云ふ人達に對する氣持は一つの反抗になつて來るのです」

弟は一膝乘出す。

弟「さあそこだ……ねえ、兄さん私達が總てに諦めをつける事がいけないと云ふのは、兄さん達のやうに諦めてゐた日には何時になつて處で幸福なんてものは來る氣づかいはありませんからね……殊に兄さんは最も大きな事業をもつてゐるぢやありませんか、その片腕を切斷されたのは一體誰のためにされたのです、そうしてその不具になつたそれに對してあの工場主はどれ程の事をして呉れましたです、から今の兄さんの氣持がどう云ふ處に原因してゐるかをお考へになれば僕の言ふ事が直ぐに解る筈です……」

時計が九時を打つ

妹「兄さん（思ひ出したやうに）もう九時になつてしまつたぢやないの、又門衛がうるさいからもう行きませう」

弟「えつ……早九時になつたのかい……餘りに話に身が入つて時間も判らなかつた、それぢや行かう、だが辨當は出來てゐるのかい」

妹「えい……もう冷たくなつてゐるわよ……」

弟「ぢや行かう……ぢや兄さん行つて來ますから……僕の言つた事をよく考へて置いて下さい」

二人は下に降る。

妹「お父さんも兄さんも行つて來ます……兄さんお父さんをお願ひいたします」

兄は打沈んで考へ込む

父「氣をつけて怪我のないようにするのだよ」

妹「えゝ……」

二人は正面の入口から退場。

兄は依然として考へ込んでゐる

……短き間……

父「（病床から）湯を持つて來てお呉れ」

兄には聞へない、再び

父「（苦しさうに）湯……湯を持つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て來て呉れ」

兄は、その聲に驚いて無言のまゝ湯を持つて來る。

父「二人は可愛相なものだ、親があり兄があつても一日として樂な日を味はす、却つて二人のために苦しめられてゐるのだ」

兄「私もそれを考へると、もう生てゐる事が苦しくてたまらないのです」

父「お前があゝした言を言つてゐるのを聞くと、わしの身を刻られるやうな感じがする……お前の言ふやうに、まつたく二人の爲め……二人の幸福の爲めにはわし等が生きてゐる事は大きな罪だ……と言つて死ねるものでもなし……」

……短き間……

兄は依然として考へ込んでゐる

急に何事か思い着いたやうに

兄「お父さん……お父さんも……（聲が次第にふるへる）お父さんも……二人の爲めには生きてゐる事が罪だと思ひますか……」

父「（靜かに）そう思はずにはゐられない……」

……短き間……

父は次第に眠る。兄の表情は次第に云ひ知れぬ淋しさと、そのなかに一種のすご味と喜びが現れる。

（光線は次第に暗くなつて往く）ふら／＼と起ち上つて勝手元の方へ行く。

（舞臺はまつたく暗黒になる青き光線のひらめきの交錯）

闇のなかから、苦しさうなうめき聲、聞へる

（再び漸時明るくなつて來る）

父は床から半身をのり出して紅に染つて絶命してゐる、兄は舞臺の中央に座して、血の附着した出刄を凝視てゐる。

兄「俺達の死は、幸福……それだ……弟妹の爲めに（聲はふるへてゐる）」

入口の方に足音が聞へる。兄の友人入口から登場。

友人「おい松澤（兄の名）おい……」のどを突かうとしてゐるのを見て友人驚く、あわこゝその手を押へる。

友人「おい……何をすのだ……馬鹿な事をするな」

兄「誰だ……手をはなして呉れ……俺は死なゝければならない、俺は幸福の世界に往くのだ……手をはなして呉れ」

友人「何を云つてゐるのだ、氣を靜かにしろ……俺だよ……おい俺だ！」

顔を見る。

兄「おゝ！瀬川か……俺を死なせて呉れ……」

友人「何を馬鹿な事を言つてゐるのだ……君は氣でも狂つたのか」

兄「氣も狂ひもしやう今のやうな苦しい思ひをして生きてゐるならは……えい……そう／＼してゐられないのだ……手をはなせ……」押へられた手を振り切らうとしてもがく。

友人「まて／＼……今俺が何の爲めに來たかは君は解らないだらう……おい松澤！」

兄「俺にはそんな事はどうでもいゝのだ手をはなして呉れ」

もがきつづける。

友人「よし……君がそれ程にするのなら手ははなしてやらう……だがなあ、兎に角俺の言ふ事を……いやあの造船所の三千の職工の言ふ事を聞いて呉れ……」

兄驚ろく。

兄「えつ……三千の職工」

友人「そうだ……その三千の職工が君のためにどれ程盡して呉れたかは君は知らないだらう」

無言のまゝに友人の顔を凝視てゐる。

友「それを知つた時には決してこんな氣狂ひさたは出來る可き筈ではない！そうだ……君が怪我をしてあの工場を解雇された翌々日だつたと思ふ、まあ日はどうでもいゝが兎に角その頃だつた君の居つた部の有志の會合が工場内で開かれて君の解雇された事に就いて談し合つたのだ餘りに君に對する會社側のやり方が無謀極るやり方であり、今後幾人出るか知れない、犠牲者に對して同じやうな事をされた日にはまつたく俺達はあの工場に働く事は不具になる事と此の社會から捨てられる慘めな人間になる以外には何ものもない、だから此の際徹底的に君に對する會社の態度を糾彈しやうと云ふ事を相談したのだ」

兄「えつ……それは本統なのか？」

友「勿論……それからだ」

兄「だが……俺にはそれは何もならないのだ……」

死人のやうにぐつたりとしてしまふ。

友「兎に角聞いて呉れ……そうして相談會を開いたのがはじまりでそれがやがてあの山崎造船所を動す大爭議になつたのだ、一回二回と交渉を重ねたが、なか／＼頑として應じさうにもない然しその時には、もう工場全體に君の問題を中心に待遇の改善をせよと云ふ叫び聲は擧つてゐた、けれ共實際に當らうとするのは矢張り君のゐた部だけだつた、それでこれではとうてい成功する見込はない、成功させやうとするならば全工廾が起たなければならないと云ふので、丁度三回目の交渉が決裂した日の夜、××町の××館で山崎造船所職工大會を開催した、處がそれがまんまと成功して、第四回の交渉は工場の代表を出すそしてそれが不結果に終るとすればその翌日からストライキをやらうと云ふ決議がされた譯だ」

兄「瀬川……濟まない……此の俺の爲めにそれ程までにあの人達がやつて呉れたのか……だが俺はなあ……」

友「どうしたと云ふのだ……」

兄「矢張り俺は意生地なしだ」

瀬川はなだめるやうに

友「まあいい……それからだ、とうとうストライキと云ふ事になつて實に惡戰苦鬪二十五日間互に睨み合つた譯さ、今から考へるとあれ丈け多くの人が一人として裏切らずに闘つて呉れたと思ふね……矢張り完全に結び合はなければ駄目だな……そのお蔭で今迄で頑強にほとんど受附なかつた要求を全部とは往かなかつたが七分通り容れると云ふ事になつたのだ、それから特に君に談したい事は君に對して會社は今から二十年間の扶養料を出さうと云ふ事になつたのだ」

兄「えつ……」驚ろく。

友「別に驚かなくてもいゝ、それは當然だ……それで……それまでに未だもう一つ談さなければ解らない、その爭議からあの工場に勞働組合が出來たのだ、それで君も遊んでゐる事だし、一つ組合の事務をやつてもらい度いと思つて實は今日相談に來たのだ……處が此の始末だ……」

今迄握り締てゐた出刄をはなすそして友人の手を堅く握り締る

兄「瀬川……濟まない……俺は皆の人達にもう合す顔がない……」

友「許すも許さないもないぢやないか……それで君が此の氣狂ひ沙汰から眼が醒ればいゝのだ」

兄「だが……おれは……おれは矢張り意生地のない……弱い人間で終るより他はない……瀬川！おれの總てはもう終りだ……」

友「何を言つてるのだ、君は未だ眼が醒めないのか、夢ぢやないよ」

兄「よく解つてゐる……だが、おれは總てを運命と諦らめたのだ……そしておれは恐しい罪を犯して終つた……弟妹の幸福の爲めに矢張おれの行く處は死だ」

友「えつ……恐しい罪を犯した」（握つてゐた手をはなす）一體どうしたのだ」

兄「あの薄幸な弟と妹を見ると永く病んでゐる父とこの不具のおれが……生てゐる事は出來ない二人を樂しい幸福の世界へ導くにはおれ達は死より他には何ものもなかつたのだ、それで俺は死を決した、そして跡にも先にも唯一人の父を殺す事も……あゝ……恐しい！是れが夢であつて呉れゝは……矢張現實だ……瀬川矢張り俺は弱い男で終らう……」

友人父の死體を見て驚く。

友「君は……何と云ふ事をして呉れたのだ……」

兄「許して呉れ……」

友「あゝ……俺達がやつて來た總ても水の泡になつてしまつたのか……（がつくりとする）少しは今の世のなかを考へて呉れてもよささうなものだ……よく考へて見ろ……君達二人が死んだからつて決して弟や妹は幸福な生涯が送れるものではない、矢張り依然として紡績工場の職工だそして同じやうに牢獄のやうな工場で追い使はれて往かなければならないのだぜ……結局は死んで往く君たちのみの幸福で跡に殘つた二人には今の苦しみにもう一層精神的な苦しみを與へるやうなものだ……」

兄「もう言つて呉れるな……俺と云ふものは生れは生る程多くの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不幸を作つて往くのだから」

友「いや〳〵……俺は君がその夢から醒める迄言はなければ置かない……だが出來た事を今更兎や斯く言つても爲方がない事だけれ共、今自分の犯した罪から考へても解る筈だ、少しは冷靜になつて考へてくれ……その罪は誰が犯さしめた罪だそして君のその片腕は誰の爲になくなつたのだ……成程君が父を殺したがその恐ろしい事を爲なければならないやうにした原因がなければならない、その原因……その罪を犯さしめたのは……松澤……おれたちの總ての幸福を奪つて往くそれだ……だから決してそれは君の犯した罪ではないのだ、何故君は自分の生命を捨て、親を殺す程の勇氣があるならばそれを、その片腕をとつた……いや俺達の幸福を奪つて往く恐しい惡魔にその刄を向けないのだそして皆の苦しみを見捨て死ぬなんて事は以つての他だ……」

……短き間……

友「決してつまらない考を起してくれるな……決して今からでもおそくはない……俺達は俺達の幸福のために石にかぢりついても生きて往かなければならない、そしてそのためには生命を賭けても闘はなければならないのだ……おい松澤！確りしてくれ……君か俺達無產者の幸福のために闘ふ事に依つて罪の總ては補なはれて往くのだ……」

……短き間……

急に身體を起して友人の手を握り顏を凝視る。

兄「瀬川！惡かつた……俺は今まで惡夢を見て居つた……總ては夢だ！俺はその夢から醒めよう……いや君の今の言葉に依つて俺は醒めたのだ……有難う……そうだ闘ふ此の恐しい罪を補ふために又此片腕を奪つて往つた奴等に對して俺は闘ふ……」

友「うん……醒めてくれたか有難う俺こそ感謝する……あのどす黒い煤煙下にそしてあの灰色をした大地に確り足を踏締めて現實に眼をそゝいでくれ……」

再びがつくりとする

兄「だが矢張り親を殺したのは夢ではない……」

友「松澤決して心配するな！總ては社會の罪だ……」

工場の汽笛の音が聞へる。響く。

兄「あゝ……あれは紡績工場の汽笛だ……弟妹の歸つて來る……俺は親を殺したのだ……」

頭をかきむしるやうに再び悶へる

友人確りと抱き締めて。

友「松澤！松澤！確つかりしろ總ては闘ふ事によつて救はれて往くのだ」

又汽笛が聞へる——幕——

都の夜空

谷口生

麗らかな陽光は
幸福と歡樂をつくる
光よ！綠よ！活動よ！

夜は歡樂の市場……眼はひ
夢は躍る、肉は飛ぶ、粉飾

深更！都の空は赤い
夜空の一隅から
魂をゆすぶる冷たい聲
龜井戸の闇は嘲笑ふ

書かでもの記

渡邊理治

今頃不景氣が盛に貧乏人に仇をして、氣の弱い奴はクビレ死に、人間並の奴は白晝でも銀座の眞中で強盗をし、僕等は大忙しだとは新聞記者と刑事の實話てある、とすると不景氣は新聞記者と刑事と牢屋のカキ入れ時で、盗棒はそれらの福の神々とすると法愈々多くして足らず、牢愈々多くして足らざる資本主義國家に於ては、不景氣もマンザラ捨てたものでもない

× × ×

政治屋も今頃に至つては窮乏の極盆々惡化し公然骨拔き普選と虐殺法案の二案を日比谷座で使ひわけ、亡者千人の世の中をヤンヤト云はせてゐる

如何に背に腹は代へられぬとはいへ、政治屋もココまで人を喰つて來ては平民も今後の覺悟を要す

× × ×

地震が祟つた日本の經濟界の窮況も飼殺しはするが、何といつても政治季節は鬪士さん方にとつては御他分に漏れぬ好景氣だ。

連日連夜の大メカホン、後入巻玉襷、割の惡ひのが貨物ヅンドウシャ、割の好いのがタクシー、慢性、酒の臭

× × ×

今頃は虐殺法案に不景氣と陽氣の加減も手傳つて、平民仲間からも色さま樣な奴が飛び出た

そのうちでコツチトウ等にも少々關係のある所で面白いのは、眞夏、眞冬も赤シヤツでブツトオサウと、誰れに頼まれた理でもあるまいに、名古屋クンだりからオ江戸の眞中二重橋まで征言讀みに來た男がある、この男、姓は柴尾名は饑、幼にして狂だつたかどうかは知らないが、長ずるに及んでは確に獸法累フキ自から社會主義者と豪語したものだ。

オカゲで進め社なぞも損した方だ、が治安維持法案の出るに及んで反動に旗を上げた所を見るとマンザラこの男も氣狂にしては生活にヌケ目のある方ではないらしい ソンジヨ、ソコラの主義者もこの狂傑をマネルなら今の中

× × ×

如何に刑事が口に治安維持を說き、國士が愛國を說いても彼等は事件が無ければ畢竟メシの喰ひ上げであつて見れば、要するに問題は事件がヨリ多き社會であり、彼等の生活の黄金社會であり、又そうであることを欲するのが彼等の心理狀態だとすると「治安維持が徹底的に實現せられるだらう」俺達の欲する社會に彼等が反對するのは到極到當、だから國士が如何樣に進歩し樣ともコツチトウラに四百四病の病ひより苦しい貧の世界が尾行してゐる限りは、國士に飯の喰ひ上はない譯だ、この點までは安心して大通を步かれよ

だが諸君の治安が若しコツチトウ等の冥土の土產になる日には又諸君の養生も相叶ぬ日の近いことをだけは知つてをきタマへ

× × ×

近頃加藤高明位い達運な奴も又とあるまい、と陣笠連がウラヤンでゐる、曰く入りては日本の代表的ブルヂュアーの婿、出ては世界に誇る軍國の首相、右手に治安左手に普選は餘りモーションが上手すぎると眞に悠又一陽來福かどうか

× × ×

普選はどう見ても骨拔き、議會は喧嘩する所、エース、ノウーを云ふ所

改めて議事は紅燈待合で決せらるるものこの非凡の會合のある限り議會に依つての社會改造は萬事杞憂に歸するものと、平民は褌を締めなほしてかゝること必要

× × ×

こう書いては刑事さんにはかり白眼れて算盤の取れない俺が出來上つてしまふので、一ツ最後に社會主義者に對する不平でも云つてをく

今の日本の社會主義者は、日本の現狀などはさておいて、……でもして法界でも吹かなければ、誰れが社會學者だか見解が附かない程、日本に附いては研究されて、批評されてない程幼稚な狀態ではないか、それに外國語の讀めない純プロの俺達にや、君等が興味である程英國の事情にも露西亞の事情にも日本のそれ程には興味も引かなければ、頭にピンとも來ないのだ、だつて俺に取つて到方が無いじやないか、俺が生活してゐるのは日本で、俺の生活對象も日本だものを、だから西洋の事情が君等の中心點であつて日本の事情なんぞは君等にチツト用事が無いと云ふなら話しはそれまでだが、そうでなかつた君等の好い頭は、あまりに日本の無產階級に不忠實だから自慢を少し控へて今少しなんとか日本に附いて目鼻をつけてくれ實に、著書なぞはかりどん〳〵出來て、それを讀まねば相手にされない、今の俺達はどんなに不幸か知れやしない

あらゆる新しい世界の出來事を知らなければ君等と共に進めないならば俺達ヤア當底君等と共に進めやあしない、だから治安が出たりして日本の文化は世界に冠たる樣な結果が結果するのだと俺達は愚考するのだ

そして英語が讀めるだけが日本の新しい社會を造ることが出來る要因になるならば、大英國の最も抵脳と君等は等しいレベルだと云ふことになりはしないか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯便り

◆本誌二月、三月兩號共に發禁になつた。あれ程注意して編輯した積りであるのに、矢張りいけなかつたものと見える。あれでも惡いとなると、私にはどう編輯して宜いのか一寸分らない氣がする。まさか、あの「治法」を讃め申す譯にも行かないではないか。

◆心ある士に於いては敵に對しても相當禮儀を盡すべき筈だ。いくら發禁の權限を有するからとて、無暗に發禁を命ずべきではあるまい。敵に鹽を送つた謙信の故事もあるではないか。我々も注意するが。當局に於いても、もう少し自重して見て頂きたい。

◆前號本欄に於いて、寫眞器の事を一寸書いたら、思ひ掛けなくも一同志から寄贈にあづかつた。その志し感謝に絶えない。

◆花咲く春が來たが、私は去る學生生活の數年間、常に心何者かに迫はれる様な慌たゞしい生活をして來て、何時花が咲いて何時散つたか、殆ど氣がつかずに來た。ならうものなら、今年こそ は沁み〲と逝く春を味はひたいものである。

◆來る四月十三日は故石川啄木の命日である。函館の義祖父の下に居る遺兒京子さんが成男と戀に陥つた由、「主婦の友」の新聞廣告で見た。ほんとうか知らと思ふ。あの「寂しさ」そのもの〻様なあの人にも、戀はあるものかと思ふさりとて、「戀したか」と聞いてもやられず。(石川)

◆友あり、「進め社の歌」なるものを作して示す。頼山陽のかの有名な詩「衣骭に至り袖腕に至る」の焼直し也頗る臭面白し。

◆内こ貧、外に敵、
明日の命は知らねども、
殉志の劍は鐵をも斷つ。
官憲觸るれば官憲を斬り、
閥觸るれば閥を斬る
固く若さを誓ふ我等が社。
反動團體來るならば、
ピストル揃へて彈進上、
それでも怯まず來るならば、
首に白刄の引出物。

◆男兒時に感じては、花にも涙をそゝぎ、鳥にも心を驚かす。世は春なれや、春なれやだ。(靈助)

◆毎號編輯の度に、今度こそはよい雑誌を作つて見ようと意氣込むがさて、やつて見ると思ふ様にはいかない。せめて今月は誤植はかりも無い雑誌にして見せようと懸命になつてゐる。

◆五月號からは、がらりと編輯方法を變へて全土戰報欄を一層擴張し、更に、社會小説、講談、通俗的社會革命家傳、社會主義者夢物語り等をのせたいと思つてゐる。

◆社會主義者は夢物語りをする様になると、少くとも一部の人達から非科學的なものとして排斥されること〻思ふが、私の考へとしてはさうは思はない。

◆過去の亡靈に囚はれてゐるものはよく幻を追ふが、夢見る人はよく未來のことに就て考へてゐる人である。少くとも幻と夢とは區別しなければならない。

◆私は常にこの夢を見てゐる。總ての人が、萬人の幸福と自由のために、人を穽し入れず、傷つけず慈悲と法悦に生きる様な地上を作りたいと云ふ、夢がそれである。

◆然し一方、人が人を傷つけ、人の幸福を奪ふことによつて、生きてゆく、淺ましい〻現世の姿、それにさうせねばならぬ様に强られてゐる社會制度を是認する譯ではない。かうした世の中を壊すためにこそ、力による革命をも認むるのである。

◆だが、かうした、夢に生きることゝ、現實を基礎として考へた、革命と、どつちが正しいだらうか一方が正しければ、一方が正しくないと云ふ理論的な矛盾があるが私はどうしても、どつちでも、當然なことだと思はれる。

◆少くとも、かうした理論的の矛盾は、慈悲と法悦の世界が出現することによつて解決されると思ふが、少くとも未來は青年のものである以上、我等は未來の正しい社會に就て夢見る事は當然な事である。

◆今度、進め社で働いておられた大路龍一郎氏が御自分の都合から退社され、京都に歸つた。今段氏の既知の方々に報告しておく。(小助)

會計規則

會計係では事務の都合上左の如く規定を設けてありますから左様御承知下さい

一、雜誌に關する問合せ又は注文等は必ず會計係宛になす事

二、住所氏名は明瞭に書く事

三、見本希望の向は切手十錢封入して申込む事

四、誌代は成可く六ケ月分以上前納する事

五、集金郵便、代金引換郵便等にての送金は斷る

六、誌代切れ或は誌代前納なき場合は一切送本せざる事

七、誌代拂込は出來得る限り振替を利用し、振替の惡き場合は爲替又は切手を用ふ事(振替の通信欄には用件を明記する事)

八、振替にて拂込む場合は振替口座東京六九八五三進め社本部へ、尚一切の用件は東京本部宛にする事

東京市芝區櫻田久保町十九
振替東京六九八五三
進め社本部
大阪市外中津町西成小路六四二
發行兼編輯印刷人　福田狂二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新刊

猪俣津南雄氏譯 ソオスタイン・ヴエブレン著

特權階級論

四六版三百頁布上製 定價二圓 送料拾五錢

特權階級。それが現時如何なる社會的事象に基てゐるか特權は彼等に何を與へ。彼等の支配下にある廿世紀文明はそれによつて何を得何を失ひつゝあるか特權なき普通人大衆はその事實を何と見社會進化はかゝる存續を許すであらうか。許さぬとすれば何故に。この疑問に對する問ひに科學的解答を與へてあるのが本書である。この書は廿世紀文明の社會に近世的新秩序を與へたものと思はれる。その論旨はよく「特權」が持つ幽迷の扉を打開し。新しき時代の眞理によつて飽迄嚴正なる批判を下されてある。原著に勝る譯文の流麗はそこに特異なユーモアまで漲つてゐる我々の刻下必讀の書である

内容
第一章 知識信仰の不安定 第四章 自由所得 第七章 生きつ生かし
第二章 法律慣習の安定 第五章 既得利權 第八章 既得權者普通人
第三章 產業技術の狀態 第六章 國家の神權 以上八章

發行所 東京市麹町下二番町三 新光社 振替東京四三二四〇番 電話四谷二六四六番

最新刊

辯護士 布施辰治 中西伊之助共著

社會隨筆 審くもの審かれるもの

四六判四一〇頁美裝函入 定價一圓九十錢 送料十錢

權力の前に弱き民衆よ!! 讀め

本書は布施氏の取扱へる事件の諸相を捉へ來つて中西氏が深刻な批判を加へた面白い如實の物語である。罪から見た人生。法律の缺陷が生んだ社會。ソレへ解剖したる刑事裁判の一斷面に暴露した人生の悲劇だ。深刻な人間生活の爭鬪があり。性的男女三角關係あり。性格破綻が生んだ自暴があり。お家騷動あり。殺人あり姦通あり。冤罪あり。疑獄あり。眞にコレが人間記錄の騷音地獄である。事實の眞相は小說より奇であり。驚異である。

裁く者は常に裁かれる者から裁かれる。裁くものには疑獄はあるが。裁かれる者自身は常に明獄である

裁く自分を善人と思ひ、裁かれるものを惡人と思ふ司法官、警察官の職業心理が皮肉なもので、罪を縱に見ると、横に見るとの相違を社會上、法律上より人間心理を面白く解剖したる興味ある讀物である。

栗栖七郎著
水平審判の日
定價壹圓 書留料拾貳錢

栗栖七郎述
水平運動の精神
定價參拾錢 郵稅貳錢

發行所 大阪市南區榮町二ノ五三 大阪水平社本部

木藤精一郎個人雜誌
特種雜誌
一年五圓 一部十錢

發行所 大阪市北區小松原町 キトウ社

日本に初めて生れたプロ新聞

解放新聞

週刊 一部八頁二錢郵稅五厘

凡ゆる解放運動の機關紙である

海外ニュースがある
面白い小說がある
研究資料がある
女のページがある
コドモのページがある
プロ文藝欄もある

全紙面を擧げて諸君に解放する

前金半年五十五錢一年壹圓郵稅共

大阪市南區鹽町一ノ二六
週刊解放新聞社
電話船場 一九一八
振替大阪七二七九〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仁丹

金銀
白金
東京市神田區松田町
德力本店

◆社會主義 圖書雜誌
◆社會問題 パンフレット
◆勞働問題 リーフレット
◆婦人問題 販賣店
神戸市湊川町二丁目十六番地
支店湊川公園前百貨店廿一號
上西書店

精工舍時計
歐米時計類
眼鏡双眼鏡
測量諸器械
プラチナ地金
ダイヤモンド
紀念盃徽章
寶石指環類
各種裝身具
服部時計店
東京銀座二丁目

クツとカバンは
アオキに限る
アオキ商店
東京市京橋區銀座三
電話銀座六四一六番
振替口座東京 二八三五九番

特に
思想團體
勞働團體
水平社
御用
紋綿布
高級既製品
中古品
御小賣
野村商店
大阪市東區谷町三丁目交叉點南へ入西側
電話東一〇四六番 振替大阪一六六八一

大雜誌が金拾錢
月刊 解放 創刊
△五月一日創刊毎月一回、毎號菊版八十頁
△無產階級解放運動團體の御用機關
△豫約賣價(定價參拾錢)勿驚タッタ金拾錢也但拾部以下は絕對に賣らず
△社同人は目下の處全部日本フェビアン協會員
△解放運動に關する消息、意見、研究の寄稿歡迎懇請、締切每月正十日
△支社設置、豫約申込滿員前なるべく早く
△發行所は東京市芝區新櫻田町十九(山崎方)「解放社」(全責任者山崎今朝彌)

通信事項
勞働運動
農民運動
水平運動
婦人運動
借家爭議
社會主義通信
電話通信一ヶ月五百圓
每日三回一ヶ月三百圓
每日一回一ヶ月二百圓
日刊 日本社會運動通信
六月一日創刊
東京市芝區新櫻田町
日本社會運動通信社
創立事務所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御老後の御樂みの爲め
御家庭の御安神の爲め

大同生命保險株式會社

大阪市西區江戸堀

電話 土佐堀 {一三二・一三三 / 一三二・四五二〇} 番

家のために

子孫のために

日清生命

東京丸の内

山一合資會社

東京市日本橋區兜町三

電話浪花 三一〇〇・三一つ三・三一〇四 / 三一〇一・六一二六・六一二九

無産階級戰闘主義

戰へ

四月號

—目次—

(前號發賣禁止)

○治法の前に眠る勞働組合
○農村無産青年の使命
○社會主義者桃太郎
○大衆革命か小數革命か
○社會主義常識辭典
○續大庭氏銃殺問題輿論
○社會運動 戰へ新聞
○社會運動家番附
○社會主義青年訓
○たとへば埋草

(定價一部拾錢)

大阪市外中津町西成小路六二四

戰へ社

加藤一夫個人雜誌

原始

四月號

(定價一部廿錢)

兵庫縣武庫郡芦屋五五八

原始社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Su-su-me Socialists Monthly.
Hed office No 1 Sakurada-Kubocho Shiba Tokyo.

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
大正十四年四月一日發行
（毎月一回一日發行）
定價
一部十錢
半年六十錢
一年一圓（稅共）（五厘）
廣告料
一行一圓
一頁三百圓

不斷の努力を捧げて

絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標語として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を加へつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店內の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管顧客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上げます。

地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尙その御手引として御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附致し上ます。

三越吳服店
大阪・高麗橋

良品廉賣
松坂屋
いとう吳服店
大阪市日本橋三丁目
名古屋市中區榮町